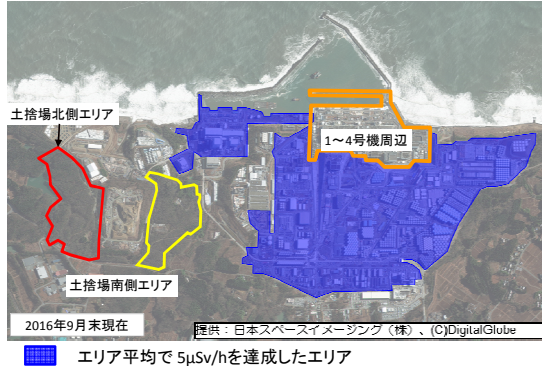


環境線量低減対策 スケジュール

分野名	括り	作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後1ヶ月の予定		12月		1月					2月				3月	4月	備考		
			23	30	6	13	20	27	3	10	17	下	上	中	下	前	後			
放射線量低減	散地内線量低減 ・段階的な線量低減	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 線量率測定 <ul style="list-style-type: none"> 構内全域の状況把握サーベイ (30mメッシュの全測定箇所を年度内にデータ更新) 構内全域の走行サーベイ[1回/3ヶ月] 線量低減対策 <ul style="list-style-type: none"> 土捨場南側エリア (伐採・造成工・路盤舗装 等) 土捨場北側エリア (伐採・盛土工 等) 建屋エリア (3号機海側等) (建物除去・路盤舗装 等) <p>(予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> 線量率測定 <ul style="list-style-type: none"> 構内全域の状況把握サーベイ (30mメッシュの全測定箇所を年度内にデータ更新) 構内全域の走行サーベイ[1回/3ヶ月] 線量低減対策 <ul style="list-style-type: none"> 土捨場南側エリア (造成工・道路舗装・排水設備 等) 土捨場北側エリア (伐採・盛土工 等) 	検討・設計																	
			現場作業	<p>■線量率測定 構内全域の状況把握サーベイ(30mメッシュサーベイ)</p> <p>■線量低減対策※</p> <p>土捨場南側エリア (造成工・道路整備・排水設備 等)</p> <p>土捨場北側エリア (伐採・盛土工 等)</p>																<p>※1~4号機周辺の線量低減は、原子炉建屋上部の線量低減対策及び周辺ヤードの整備等を実施中。(使用済燃料プール対策分野及び汚染水対策分野 参照)</p> <p>~2019年3月予定</p> <p>~2019年11月予定</p>
放射線量低減	海洋汚染拡大防止 ・モニタリング ・排水路整備	<p>(実績)</p> <p>【護岸エリア地下水対策】 港湾内外海水モニタリング 地下水モニタリング</p> <p>【排水路対策】 排水路モニタリング K排水路上流部調査(浄化材の効果の確認) 排水路清掃等(道路・排水路清掃)</p> <p>【港湾復旧改造工事】 北防波堤改造工事 南防波堤改造工事 ブロック製造工(2F構内) 深淺測量(2018年度)</p> <p>(予定)</p> <p>【護岸エリア地下水対策】 港湾内外海水モニタリング 地下水モニタリング</p> <p>【排水路対策】 排水路モニタリング K排水路上流部調査(浄化材の効果の確認) K排水路上流部調査(枝管サンプリング(雨期)) 排水路清掃等(道路・排水路清掃)</p> <p>【港湾復旧改造工事】 北防波堤改造工事 南防波堤改造工事 ブロック製造工(2F構内)</p>	検討・設計																	
			現場作業	<p>■護岸エリア地下水対策 港湾内外海水モニタリング</p> <p>地下水モニタリング</p> <p>■排水路対策 排水路モニタリング</p> <p>K排水路上流部調査(浄化材の効果の確認)</p> <p>K排水路上流部調査(枝管サンプリング)</p> <p>排水路清掃等</p> <p>■港湾復旧改造工事 北防波堤改造工事(防波堤) ブロック設置</p> <p>南防波堤改造工事(ケーソン堤/防波堤) ブロック設置</p> <p>ブロック製造工(2F構内)</p>															<p>2018年9月21日1~3号機タービン建屋下屋の雨樋に浄化材設置完了。浄化材の効果を確認中。</p> <p>~2019年6月予定</p> <p>~2020年7月予定</p> <p>~2020年7月予定</p>	
評価	環境影響評価 ・モニタリング ・傾向把握、効果評価	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1~4号機原子炉建屋上部ダスト濃度測定、放出量評価 降下物測定(月1回) 発電所周辺、沿岸海域モニタリング(毎日~月1回) 20km圏内 魚介類モニタリング(月1回 11点) 茨城県沖における海水採取(毎月) 宮城県沖における海水採取(毎月) <p>(予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1~4号機原子炉建屋上部ダスト濃度測定、放出量評価 降下物測定(月1回) 発電所周辺、沿岸海域モニタリング(毎日~月1回) 20km圏内 魚介類モニタリング(月1回 11点) 茨城県沖における海水採取(毎月) 宮城県沖における海水採取(毎月) 	検討・設計					1.2.3.4u放出量評価												
			現場作業	<p>降下物測定</p> <p>海水・海底土測定(発電所周辺、茨城県沖、宮城県沖)</p> <p>20km圏内 魚介類モニタリング</p>																

タービン建屋東側における 地下水及び海水中の放射性物質濃度の状況について

2019/1/31

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

モニタリング計画（観測点の配置）

● 港湾口北東側

● 港湾口東側

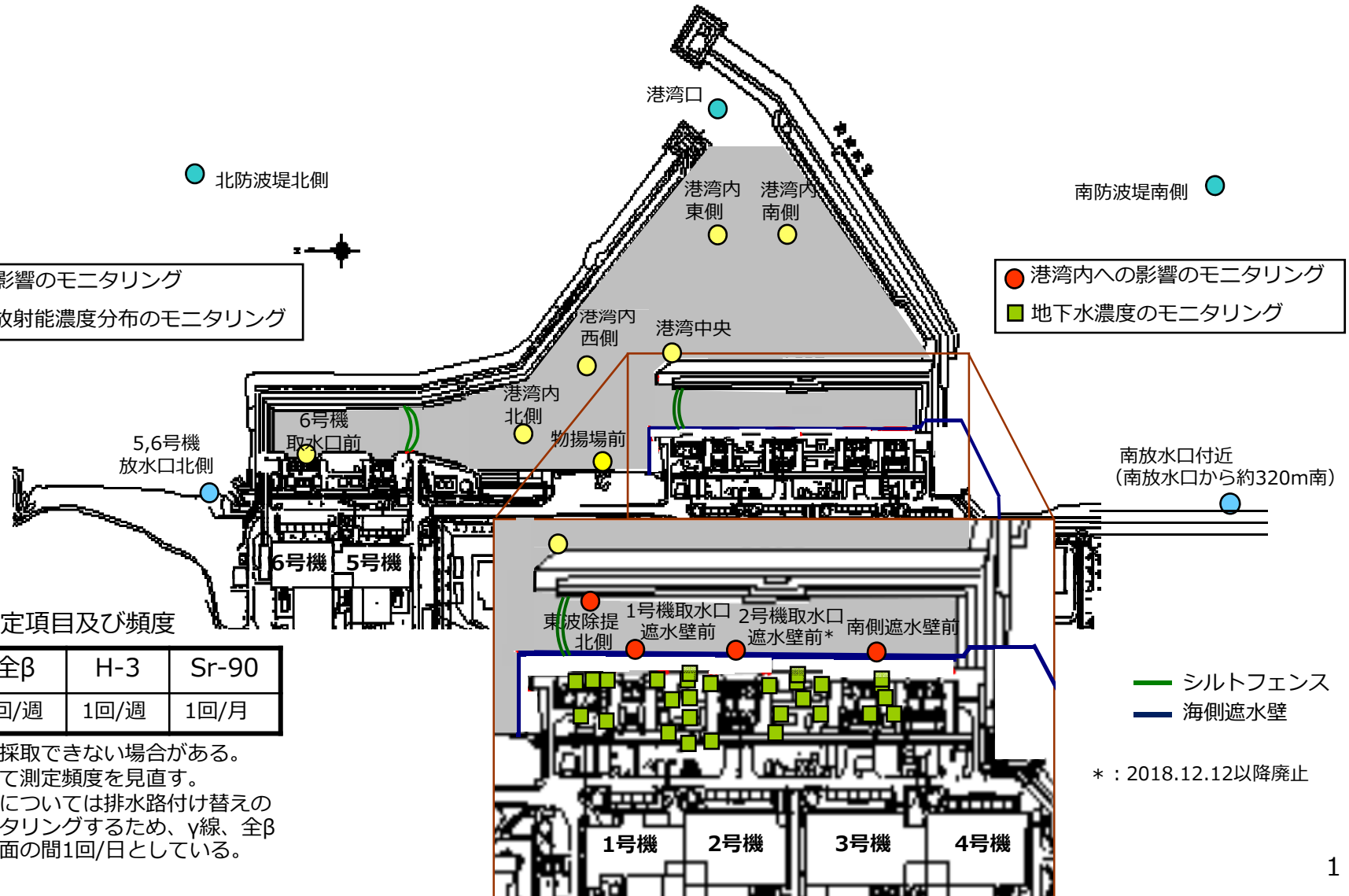
● 港湾口南東側

● 北防波堤北側

● 南防波堤南側

● 海洋への影響のモニタリング
● 港湾内の放射能濃度分布のモニタリング

● 港湾内への影響のモニタリング
■ 地下水濃度のモニタリング



基本的な測定項目及び頻度

γ線	全β	H-3	Sr-90
1回/週	1回/週	1回/週	1回/月

- ・天候により採取できない場合がある。
- ・必要に応じて測定頻度を見直す。
- ・港湾内海水については排水路付け替えの影響をモニタリングするため、γ線、全βについて当面の間1回/日としている。

— シルトフェンス
— 海側遮水壁

* : 2018.12.12以降廃止

<タービン建屋東側の地下水濃度>

- 観測点によっては大雨時に一時的な変動が見られるが、全体的に低下もしくは横ばい傾向にあり、大きな変化は見られていない。

<排水路の排水濃度>

- 降雨時に濃度が上昇する傾向にあるが、全体的に横ばい傾向にある。
 - ・ 道路及び排水路の清掃を実施中、排水路及び枝管に浄化材を設置中

<港湾内外の海水濃度>

- 港湾内では降雨時に上昇が見られるが、港湾外では変化は見られず低い濃度で推移している。^{※1}
 - ・ 港湾内（取水路開渠内含む）の濃度について、上昇時においても告示濃度を十分に下回っている。^{※2}
 - ・ 道路・排水路の清掃、フェーシング、海側遮水壁閉合、取水路開渠出口へのシルトフェンス設置等の対策の効果によるものと考えられる。

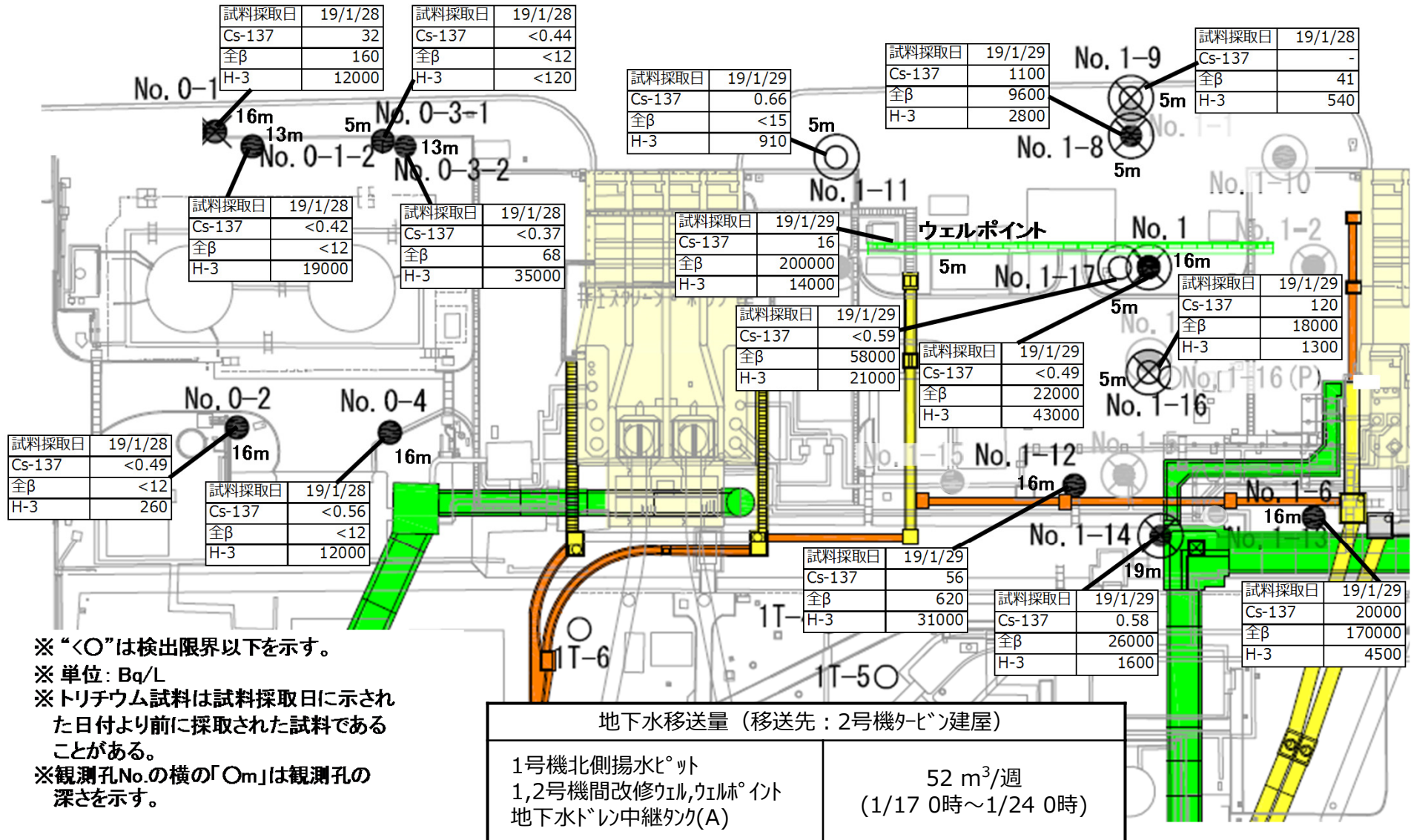
「東京電力ホールディングス（株）福島第一原子力発電所の廃止措置等に向けた中長期ロードマップ」の記載

※1：P.4 3-1. オ「周辺海域の海水の放射性物質濃度については、告示で定める濃度限度や世界保健機関の飲料水水質ガイドラインの水準を下回っており、低い水準を維持している。」

※2：P.22 4-6. (2) ①「港湾内の放射性物質濃度が告示に定める濃度限度を安定して下回るよう、港湾内へ流出する放射性物質の濃度をできるだけ低減させる。」

タービン建屋東側の地下水濃度 (1/2)

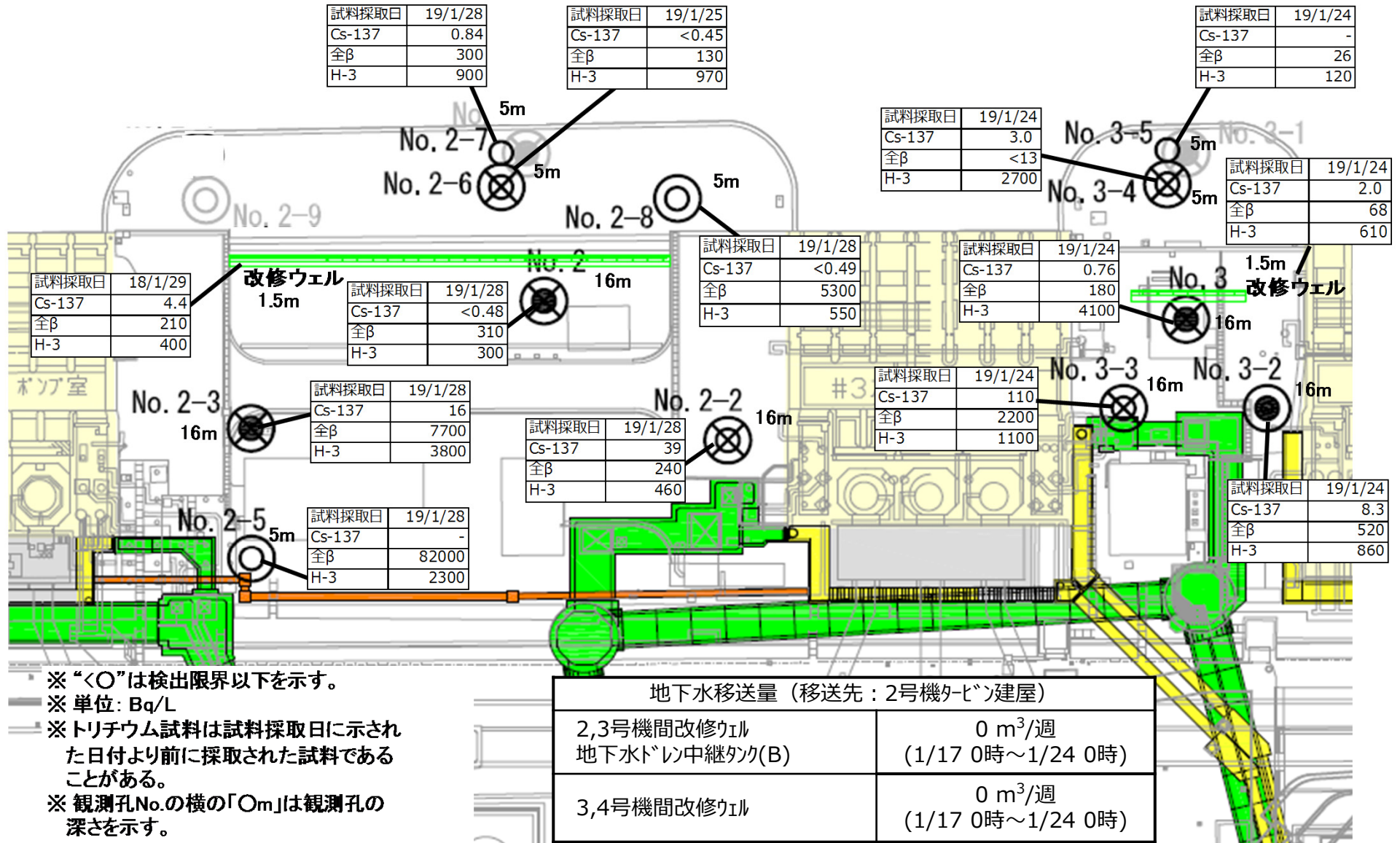
<1号機北側、1,2号機取水口間>



- ※ “<O”は検出限界以下を示す。
- ※ 単位: Bq/L
- ※ トリチウム試料は試料採取日に示された日付より前に採取された試料であることがある。
- ※ 観測孔No.の横の「Om」は観測孔の深さを示す。

タービン建屋東側の地下水濃度 (2/2)

<2,3号機取水口間、3,4号機取水口間>



- ※ “<O”は検出限界以下を示す。
- ※ 単位: Bq/L
- ※ トリチウム試料は試料採取日に示された日付より前に採取された試料であることがある。
- ※ 観測孔No.の横の「Om」は観測孔の深さを示す。

<1号機北側エリア>

- No.0-3-1でH-3濃度は2018.10より120Bq/ℓ程度から1,900Bq/ℓ程度まで上昇後低下し、現在上昇前のレベルとなっている。

<1,2号機取水口間エリア>

- No.1-6でH-3濃度は2018.3以降低下上昇を繰り返し、現在4,500Bq/ℓ程度となっている。
- No.1-12で全β濃度は2018.9より800Bq/ℓ程度から200Bq/ℓ程度まで低下後上昇し、現在600Bq/ℓ程度となっている。
- No.1-14でH-3濃度は3,000Bq/ℓ程度で推移していたが、2018.9より低下傾向にあり、現在1,600Bq/ℓ程度となっている。

<2,3号機取水口間エリア>

- No.2-3でH-3濃度は2017.11より上昇後5,000Bq/ℓ程度で横ばい傾向にあったが、2019.1以降低下傾向にあり、現在3,800Bq/ℓ程度となっている。全β濃度は2017.12より600Bq/ℓ程度から上昇し、現在8,000Bq/ℓ程度となっている。
- No.2-5でH-3濃度は2018.12より1,200Bq/ℓ程度から上昇し、現在2,300Bq/ℓ程度となっている。全β濃度は2018.12より30,000Bq/ℓ程度から上昇し、現在82,000Bq/ℓ程度となっている。

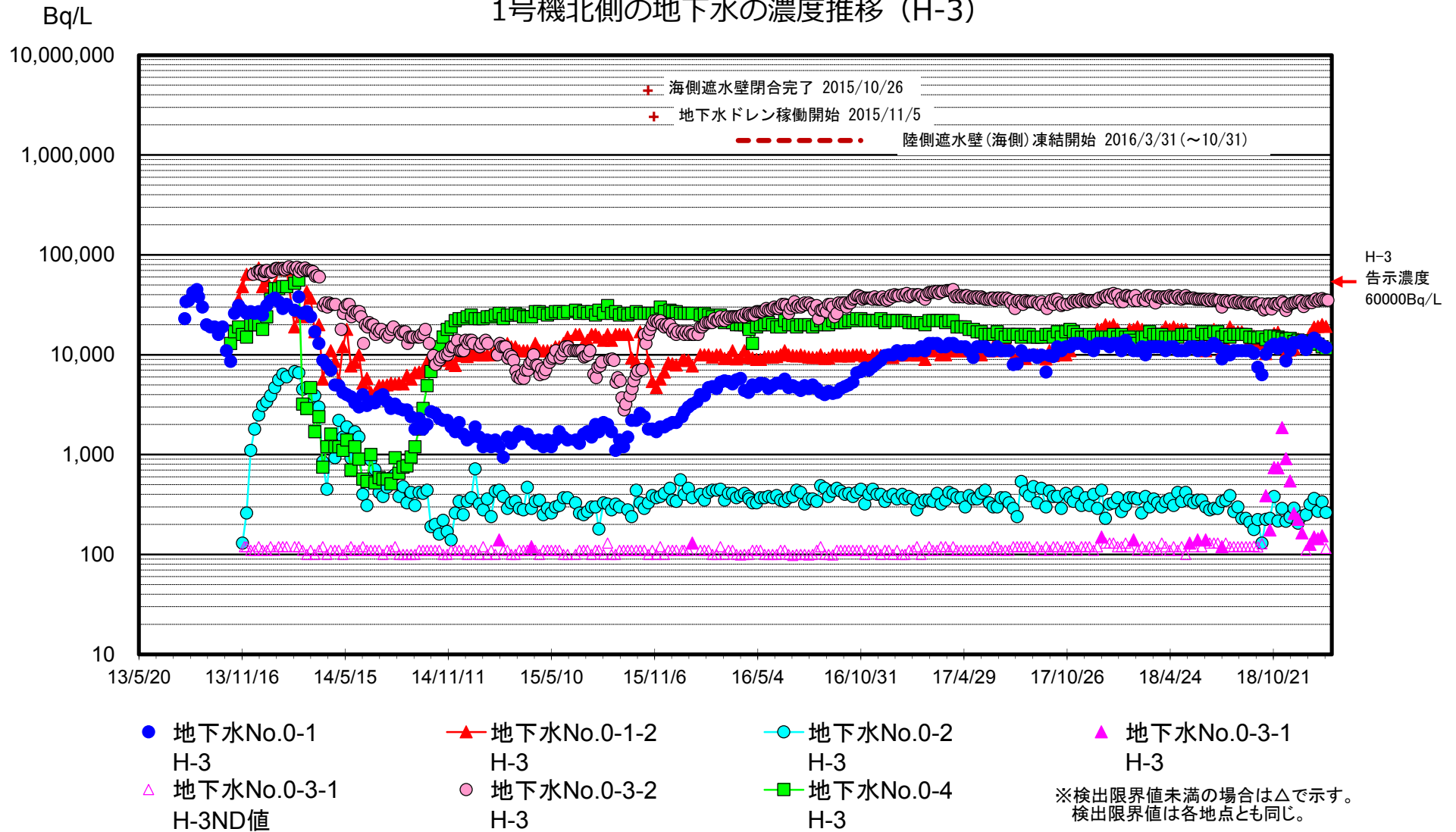
<3,4号機取水口間エリア>

- No.3-4でH-3濃度は2018.1より2,000Bq/ℓ程度から900Bq/ℓ程度まで低下後上昇し、現在2,700Bq/ℓ程度となっている。

1号機北側の地下水の濃度推移 (1/2)



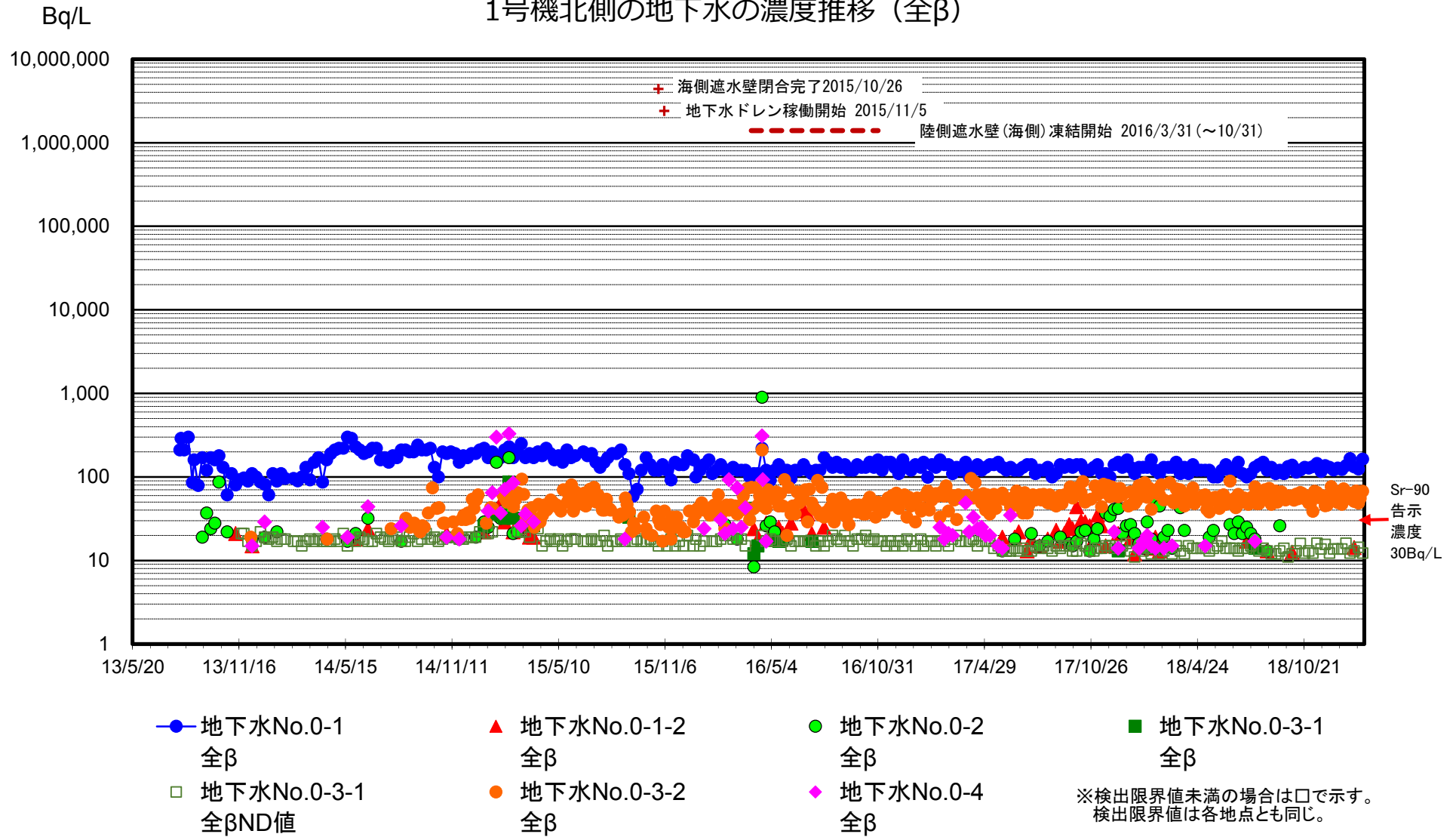
1号機北側の地下水の濃度推移 (H-3)



1号機北側の地下水の濃度推移 (2/2)



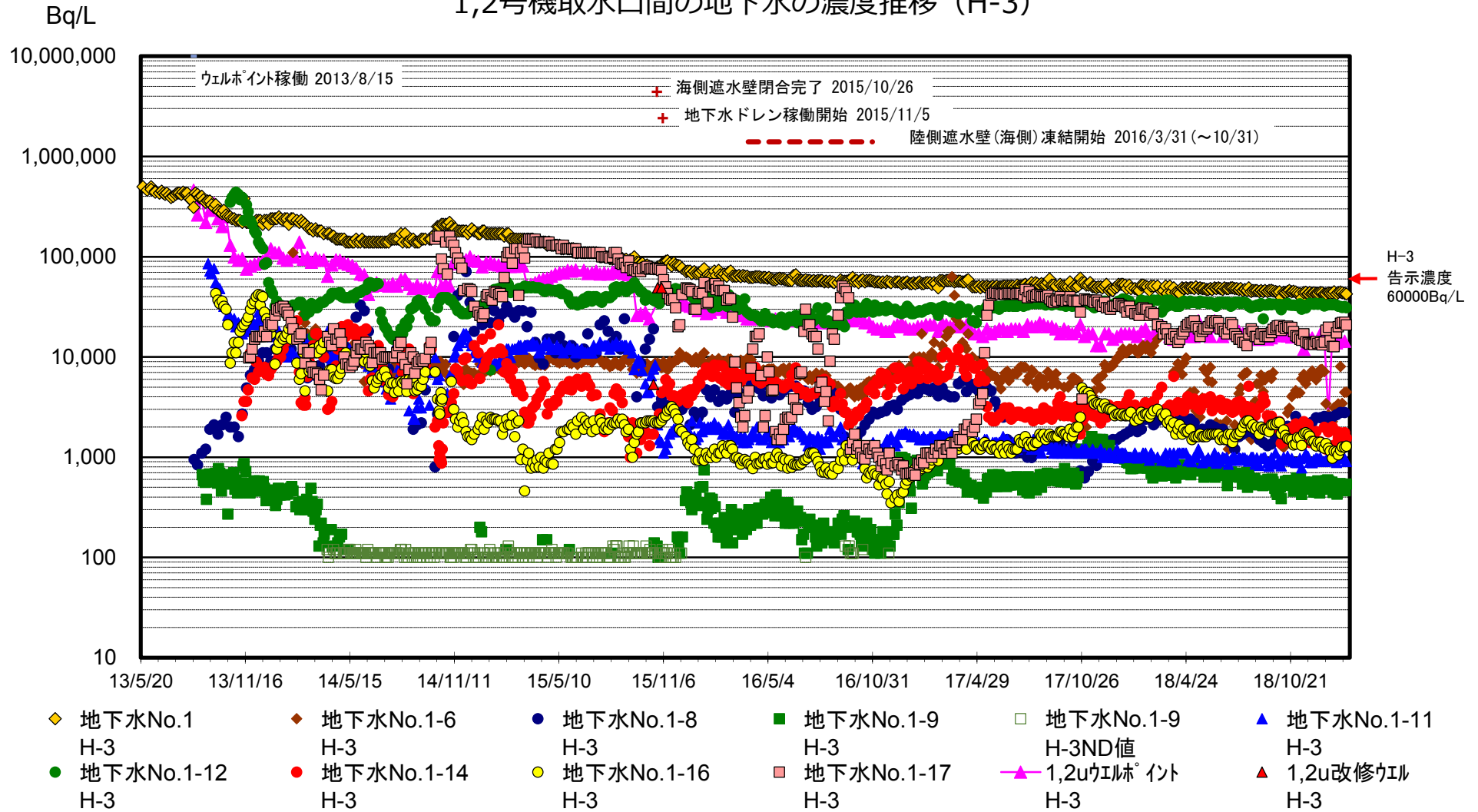
1号機北側の地下水の濃度推移 (全β)



1,2号機取水口間の地下水の濃度推移 (1/2)



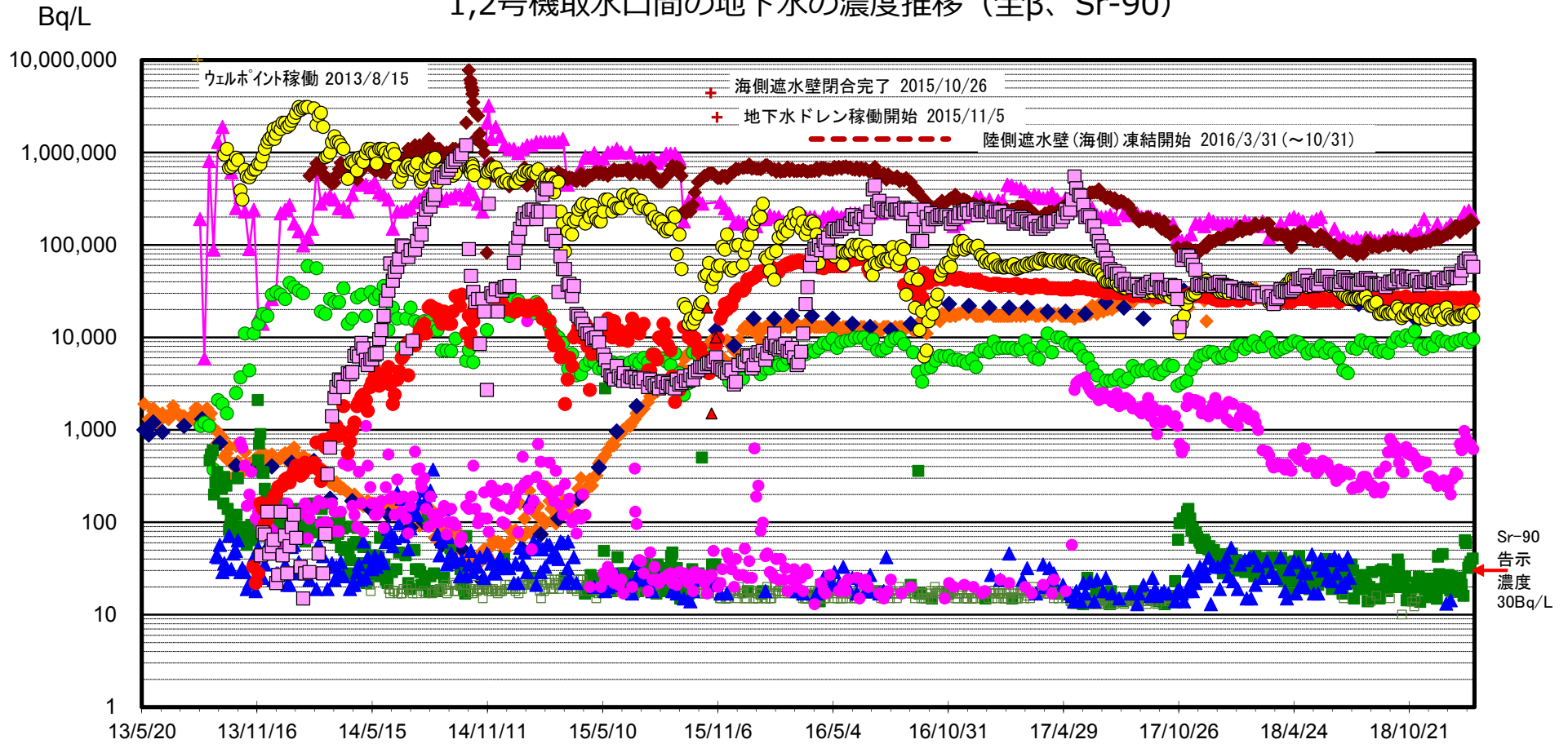
1,2号機取水口間の地下水の濃度推移 (H-3)



※検出限界値未満の場合は口で示す。検出限界値は各地点とも同じ。

1,2号機取水口間の地下水の濃度推移 (2/2)

1,2号機取水口間の地下水の濃度推移 (全β、Sr-90)



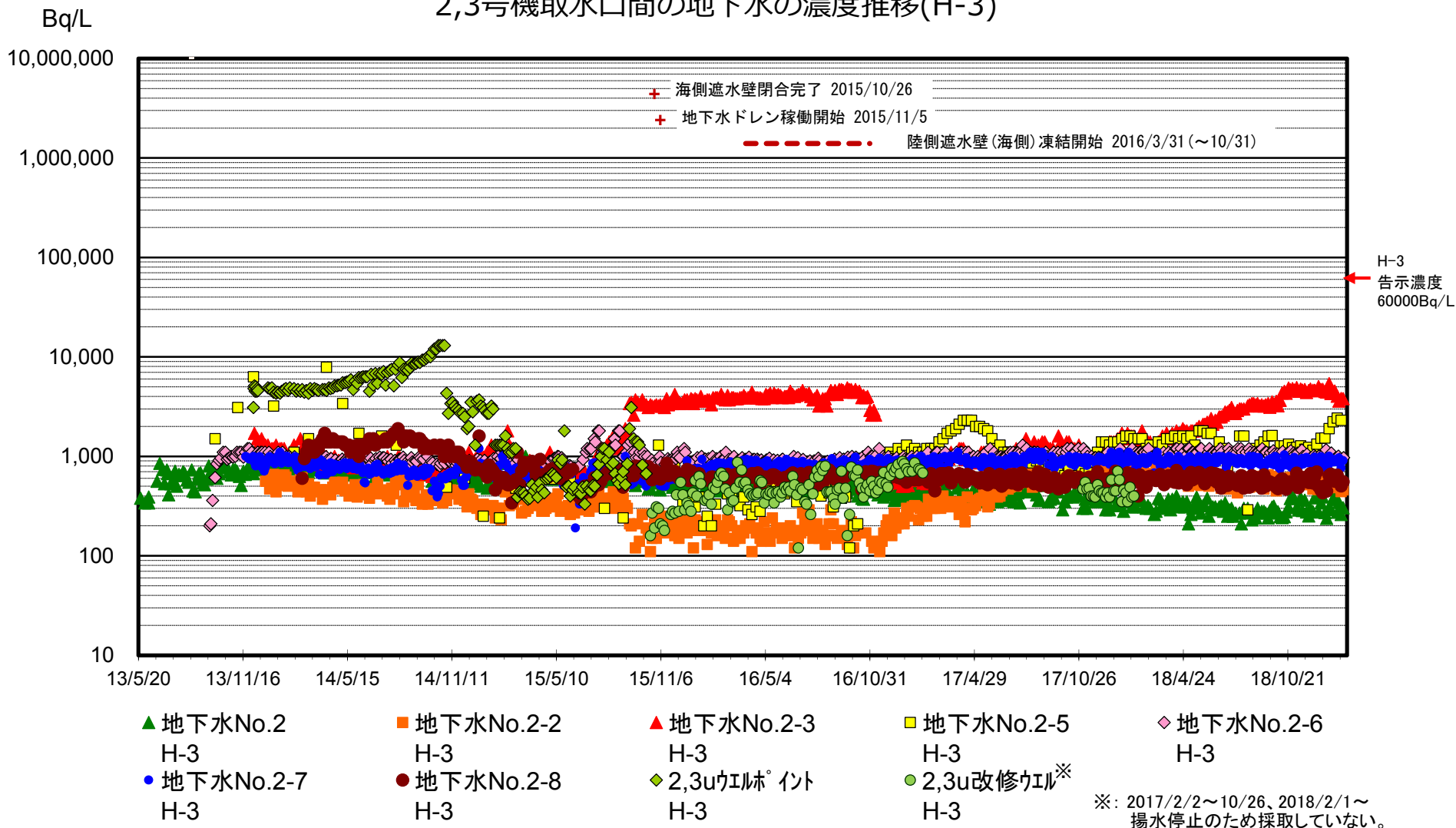
- ◆ 地下水No.1 全β
- ◆ 地下水No.1 Sr-90
- ◆ 地下水No.1-6 全β
- 地下水No.1-8 全β
- 地下水No.1-9 全β
- 地下水No.1-9 全βND値
- ▲ 地下水No.1-11 全β
- 地下水No.1-12 全β
- 地下水No.1-14 全β
- 地下水No.1-16 全β
- 地下水No.1-17 全β
- ▲ 1,2uウエルポイント 全β
- ▲ 1,2u改修ウエル 全β

※検出限界値未満の場合は□で示す。検出限界値は各地点とも同じ。

2,3号機取水口間の地下水の濃度推移 (1/2)



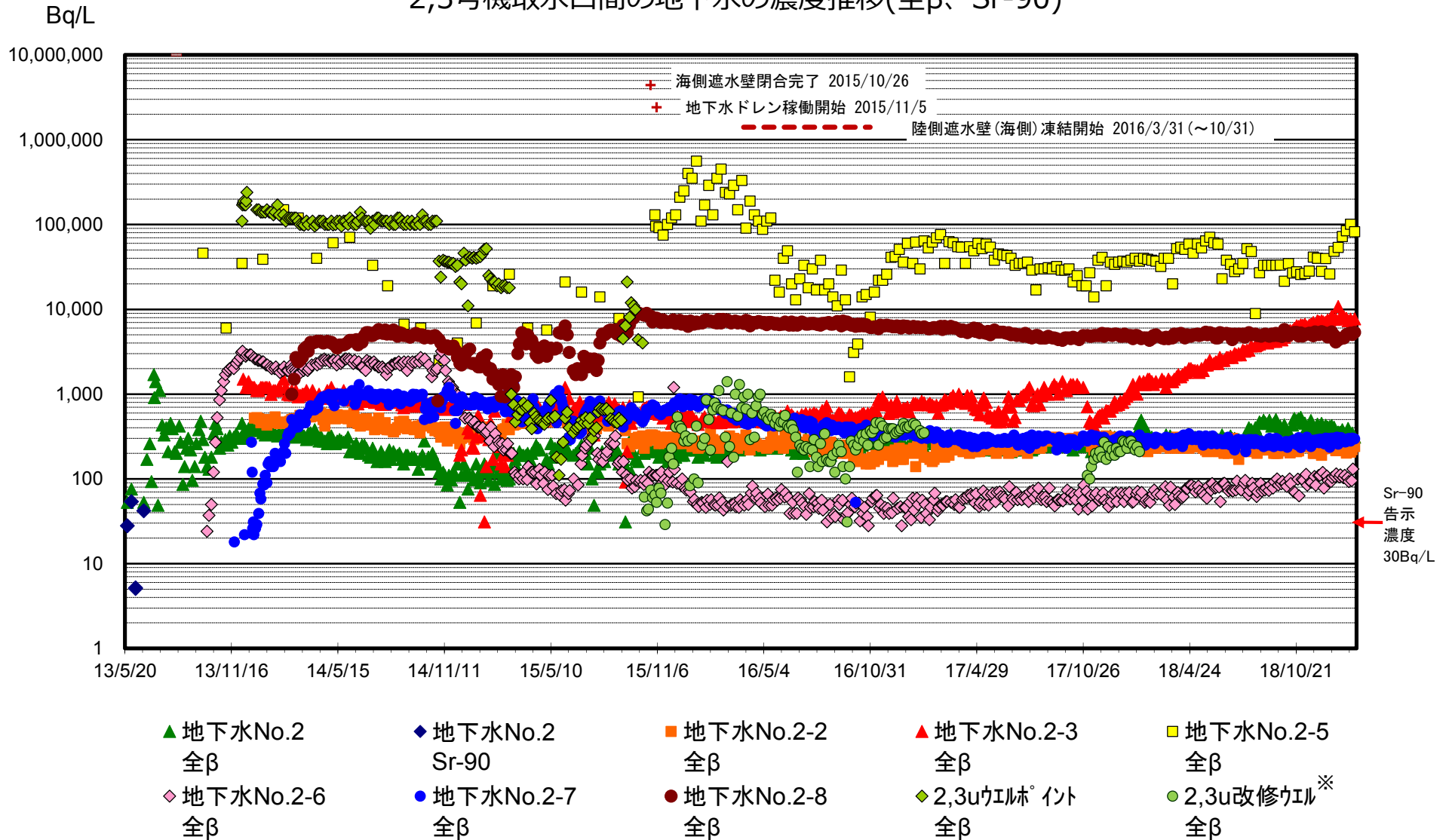
2,3号機取水口間の地下水の濃度推移(H-3)



2,3号機取水口間の地下水の濃度推移 (2/2)



2,3号機取水口間の地下水の濃度推移(全β、Sr-90)

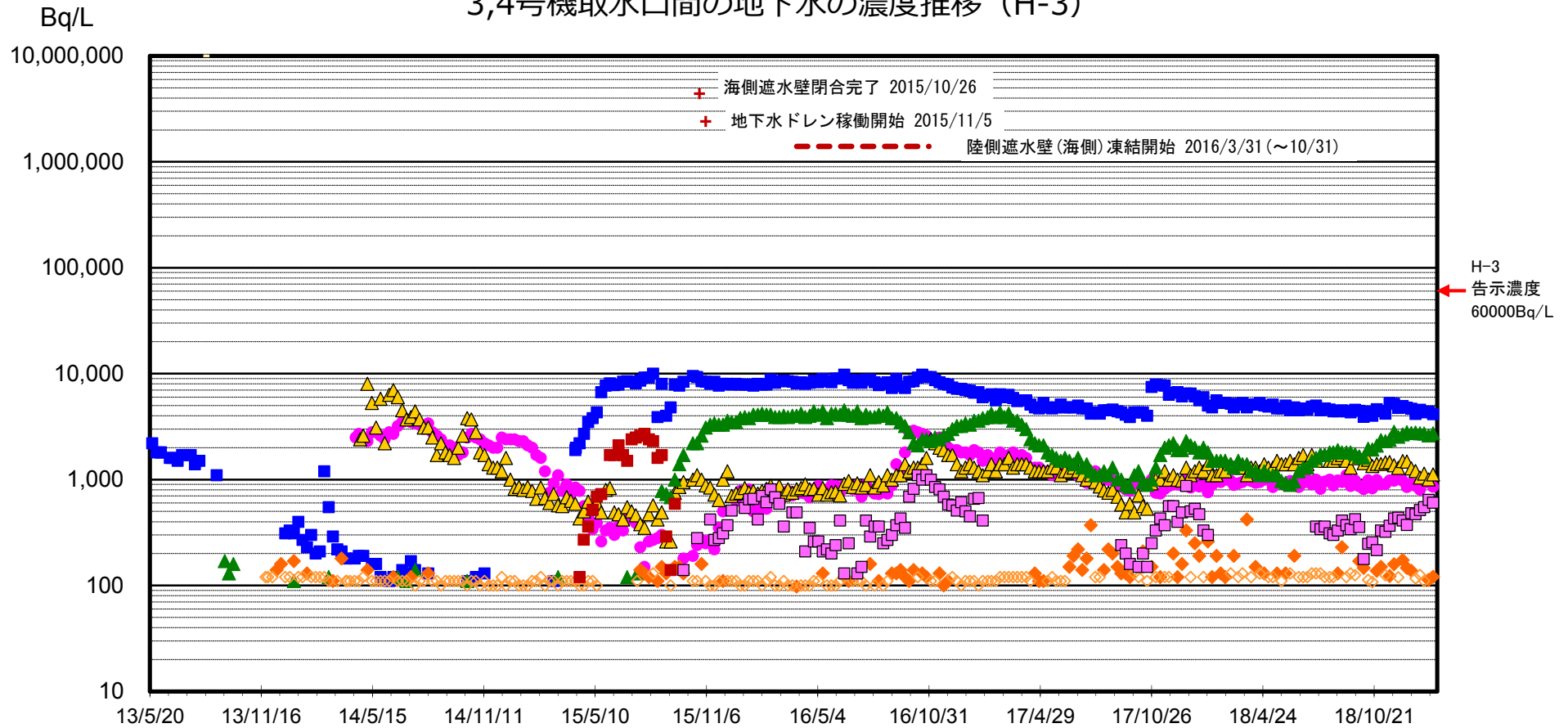


※: 2017/2/2~10/26、2018/2/1~揚水停止のため採取していない。

3,4号機取水口間の地下水の濃度推移 (1/2)



3,4号機取水口間の地下水の濃度推移 (H-3)



- 地下水No.3 H-3
- 地下水No.3-2 H-3
- ▲ 地下水No.3-3 H-3
- ▲ 地下水No.3-4 H-3
- ◆ 地下水No.3-5 H-3
- ◇^{※1} 地下水No.3-5 H-3ND値
- 3,4uウエル° イント H-3
- ^{※2} 3,4u改修ウエル H-3

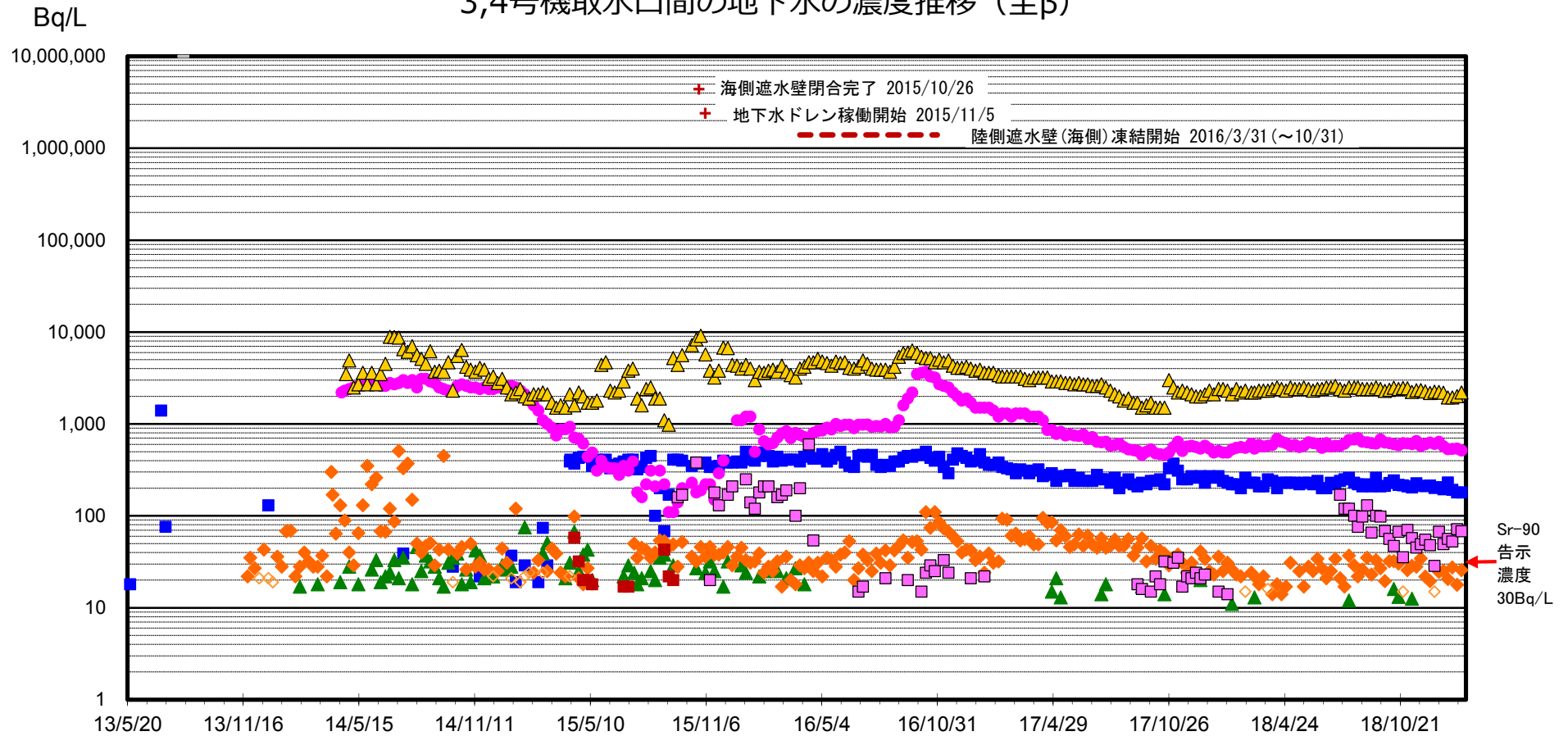
※検出限界値未満の場合は◇で示す。検出限界値は各地点とも同じ。

※1: 2015/5/20~7/8 水位低下のため採取できず。

※2: 2015/10/15,29,11/5 水位低下のため採取できず。2017/2/2~2017/8/31、2018/2/1~2018/7/12揚水停止のため採取していない。

3,4号機取水口間の地下水の濃度推移 (2/2)

3,4号機取水口間の地下水の濃度推移 (全β)



■ 地下水No.3 全β
 ● 地下水No.3-2 全β
 ▲ 地下水No.3-3 全β
 ▲ 地下水No.3-4 全β
 ◆ 地下水No.3-5 全β
 ◇ 地下水No.3-5 全βNND値
 ■ 3,4uウエル^{※1} イント 全β
 ■ 3,4u改修ウエル^{※2} 全β

※検出限界値未満の場合は◇で示す。検出限界値は各地点とも同じ。

※1: 2015/5/20~7/8 水位低下のため採取できず。

※2: 2015/10/15,29,11/5 水位低下のため採取できず。2017/2/2~2017/8/31、2018/2/1~2018/7/12揚水停止のため採取していない。

<A排水路>

- 道路・排水路の清掃を実施中
- Cs-137濃度、H-3濃度、全β濃度とも横ばい傾向となっている。

<物揚場排水路>

- 道路・排水路の清掃を実施中
- Cs-137濃度、H-3濃度、全β濃度とも横ばい傾向となっている。

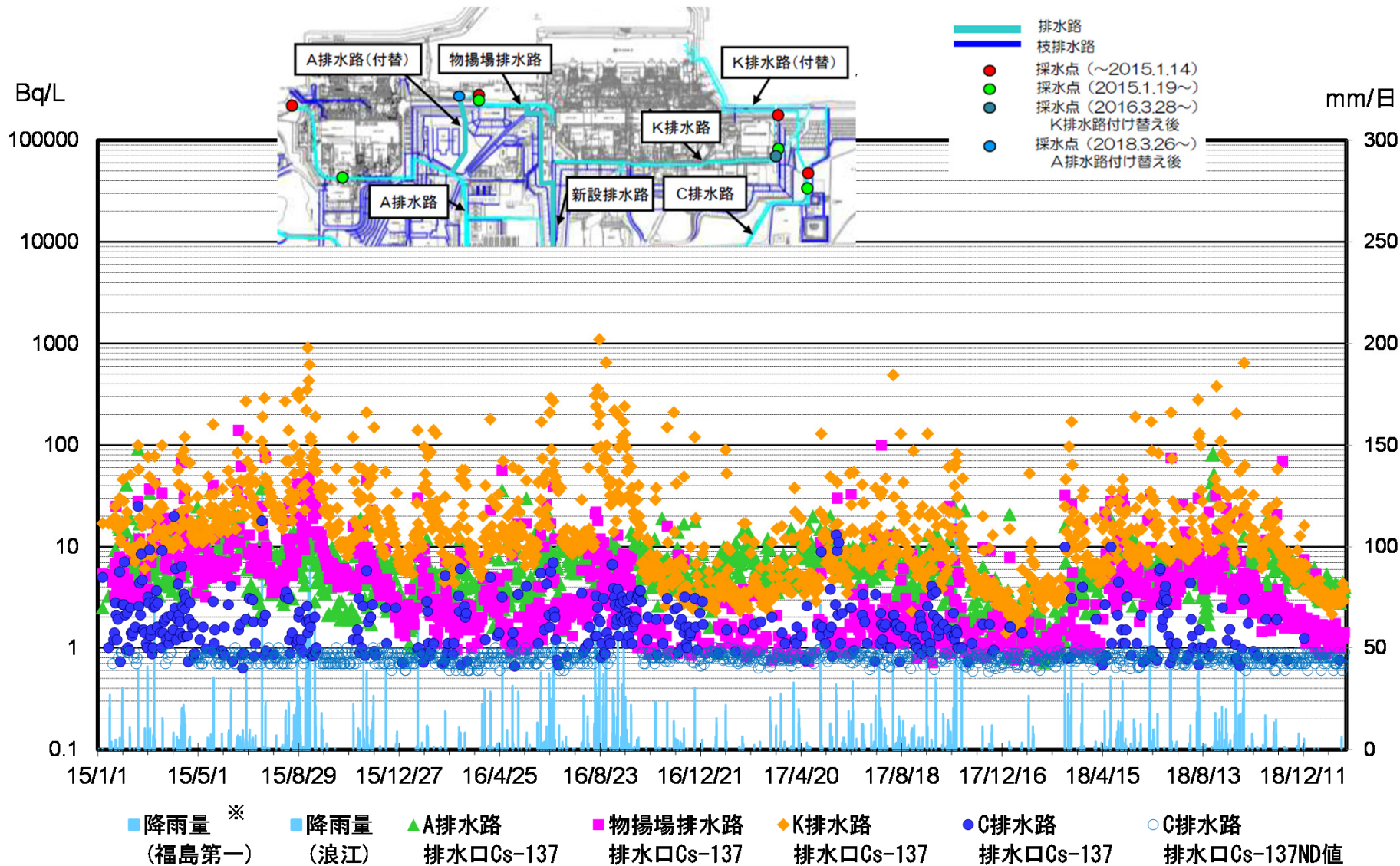
<K排水路>

- 道路・排水路の清掃を実施中、排水路及び枝管に浄化材を設置中
- Cs-137濃度、H-3濃度、全β濃度とも横ばい傾向となっている。

<C排水路>

- 道路・排水路の清掃を実施中
- Cs-137濃度、H-3濃度、全β濃度とも横ばい傾向となっている。

排水路の排水の濃度推移 (Cs-137)

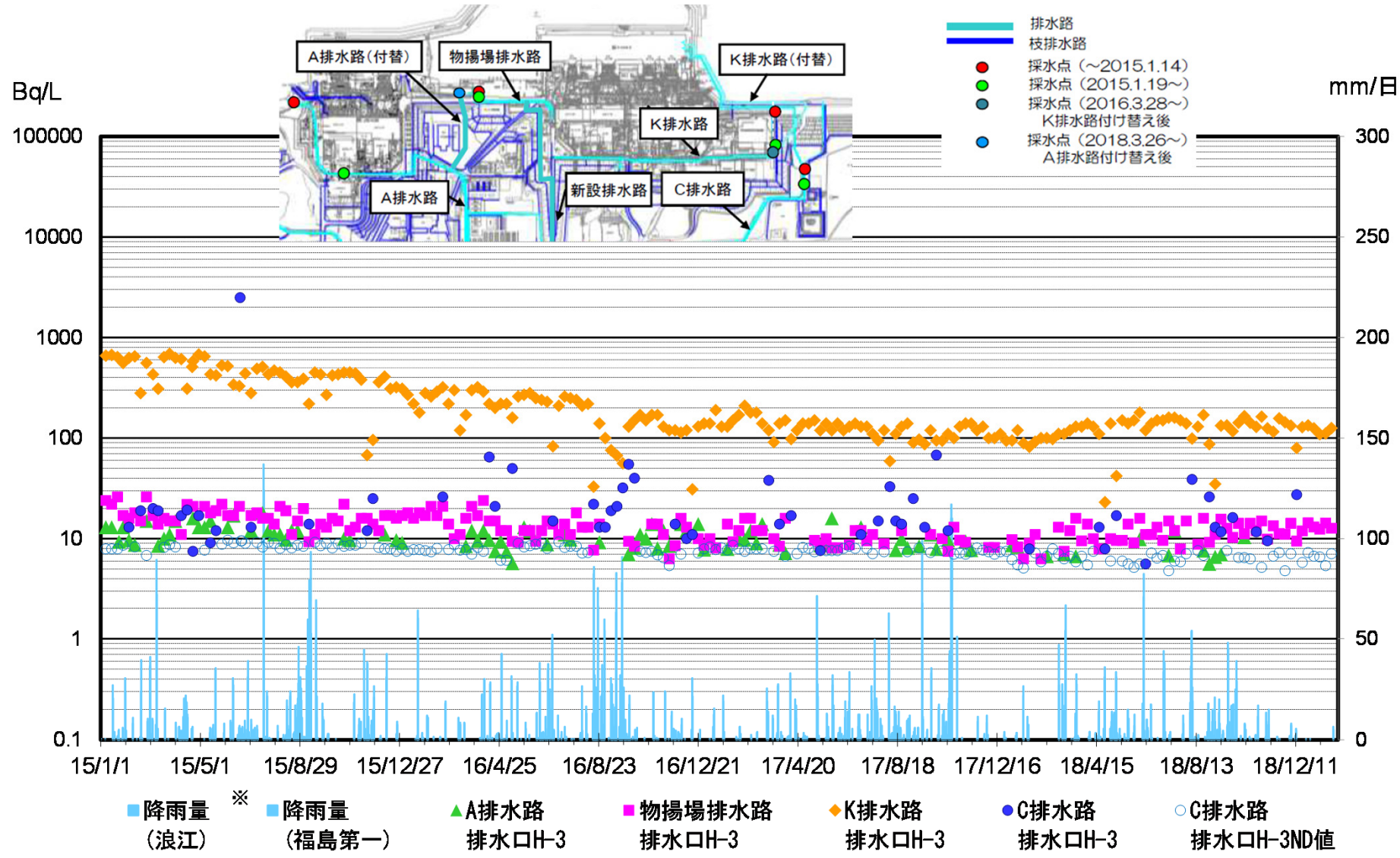


■ 降雨量 ※ (福島第一)
 ■ 降雨量 (浪江)
 ▲ A排水路排水口Cs-137
 ■ 物揚場排水路排水口Cs-137
 ◆ K排水路排水口Cs-137
 ● C排水路排水口Cs-137
 ○ C排水路排水口Cs-137ND値

※: 2017/5/13~5/15 欠測につき浪江アマースのデータを使用

注: 検出限界値未満の場合は○で示す。検出限界値は各地点とも同等

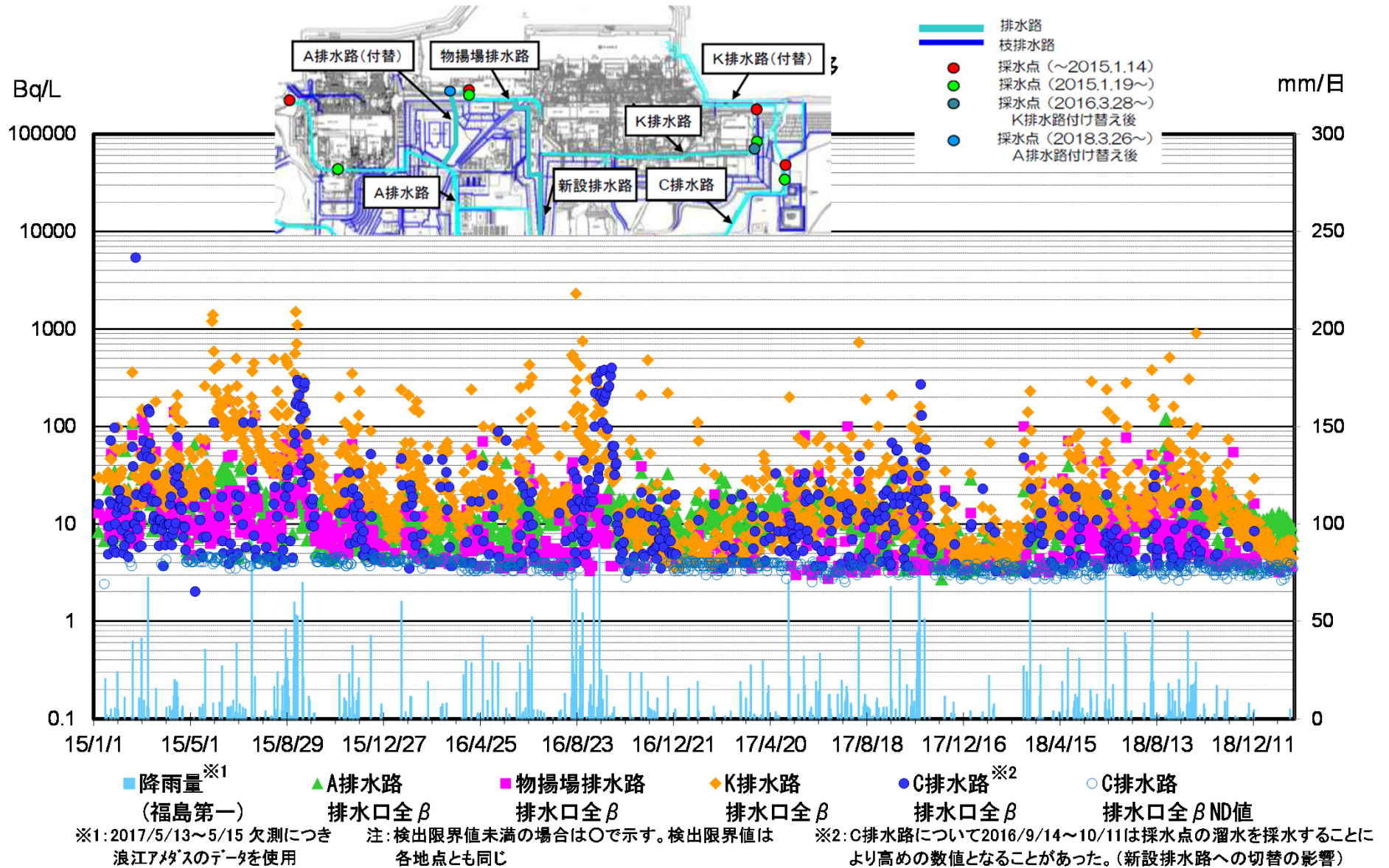
排水路の排水の濃度推移 (H-3)



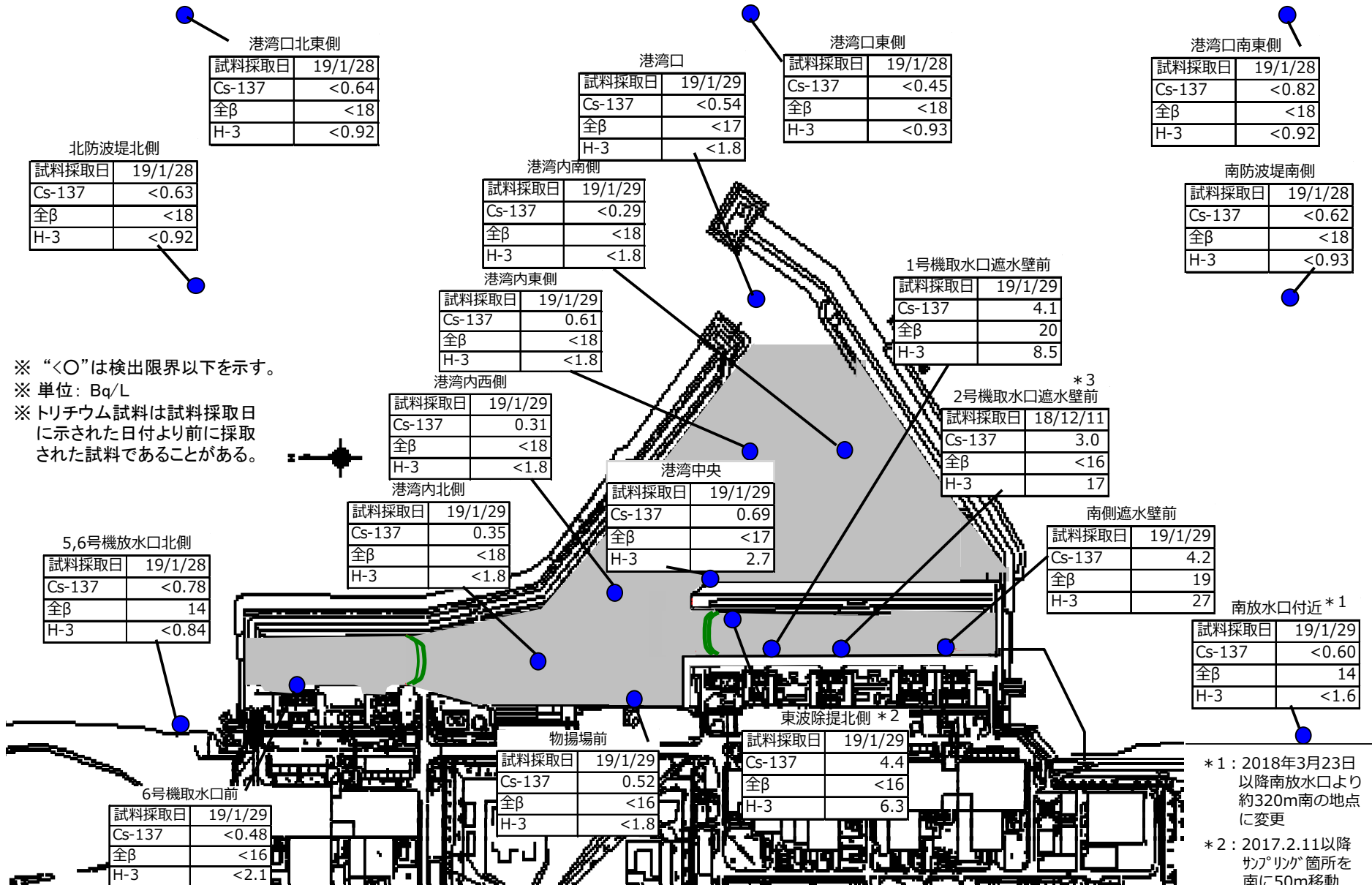
※: 2017/5/13～5/15 欠測につき浪江アダスのデータを使用

注: 検出限界値未満の場合は○で示す。検出限界値は各地点とも同じ

排水路の排水の濃度推移 (全β)



港湾内外の海水濃度



※ “<”は検出限界以下を示す。
 ※ 単位: Bq/L
 ※ トリチウム試料は試料採取日に示された日付より前に採取された試料であることがある。

*1: 2018年3月23日以降南放水口より約320m南の地点に変更
 *2: 2017.2.11以降“カブリング”箇所を南に50m移動

<1～4号機取水路開渠内エリア>

- 告示濃度未満で推移しているが、降雨時にCs-137濃度、Sr-90濃度の上昇が見られる。
- 海側遮水壁鋼管矢板打設・継手処理の完了後、濃度の低下が見られる。
- 位置変更のために新しいシルトフェンスを設置した2017.1.25以降、Cs-137濃度の上昇が見られる。

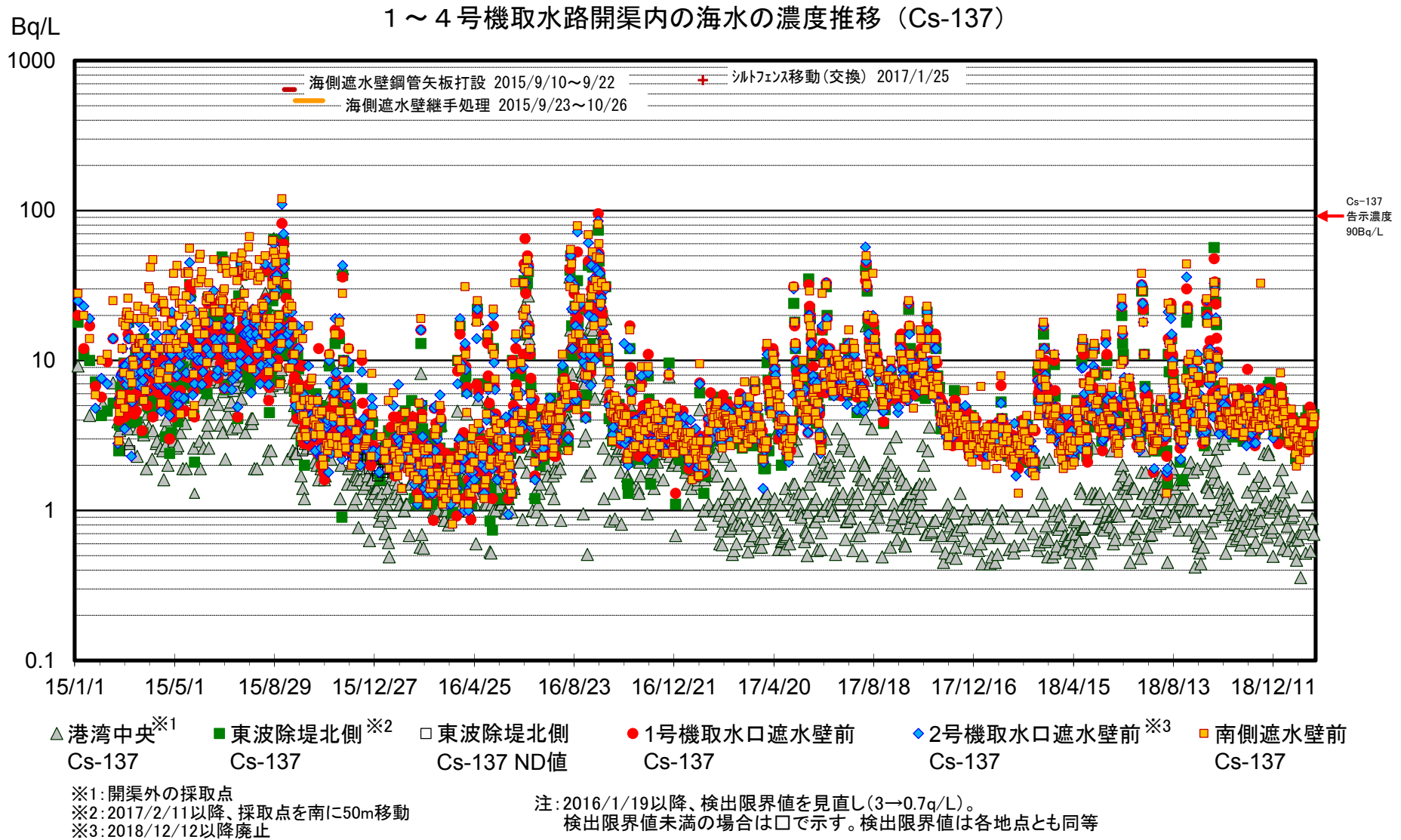
<港湾内エリア>

- 告示濃度未満で推移しているが、降雨時にCs-137濃度、Sr-90濃度の上昇が見られる。
- 1～4号機取水路開渠内エリアより低いレベルとなっている。
- 海側遮水壁鋼管矢板打設・継手処理の完了後、濃度の低下が見られる。

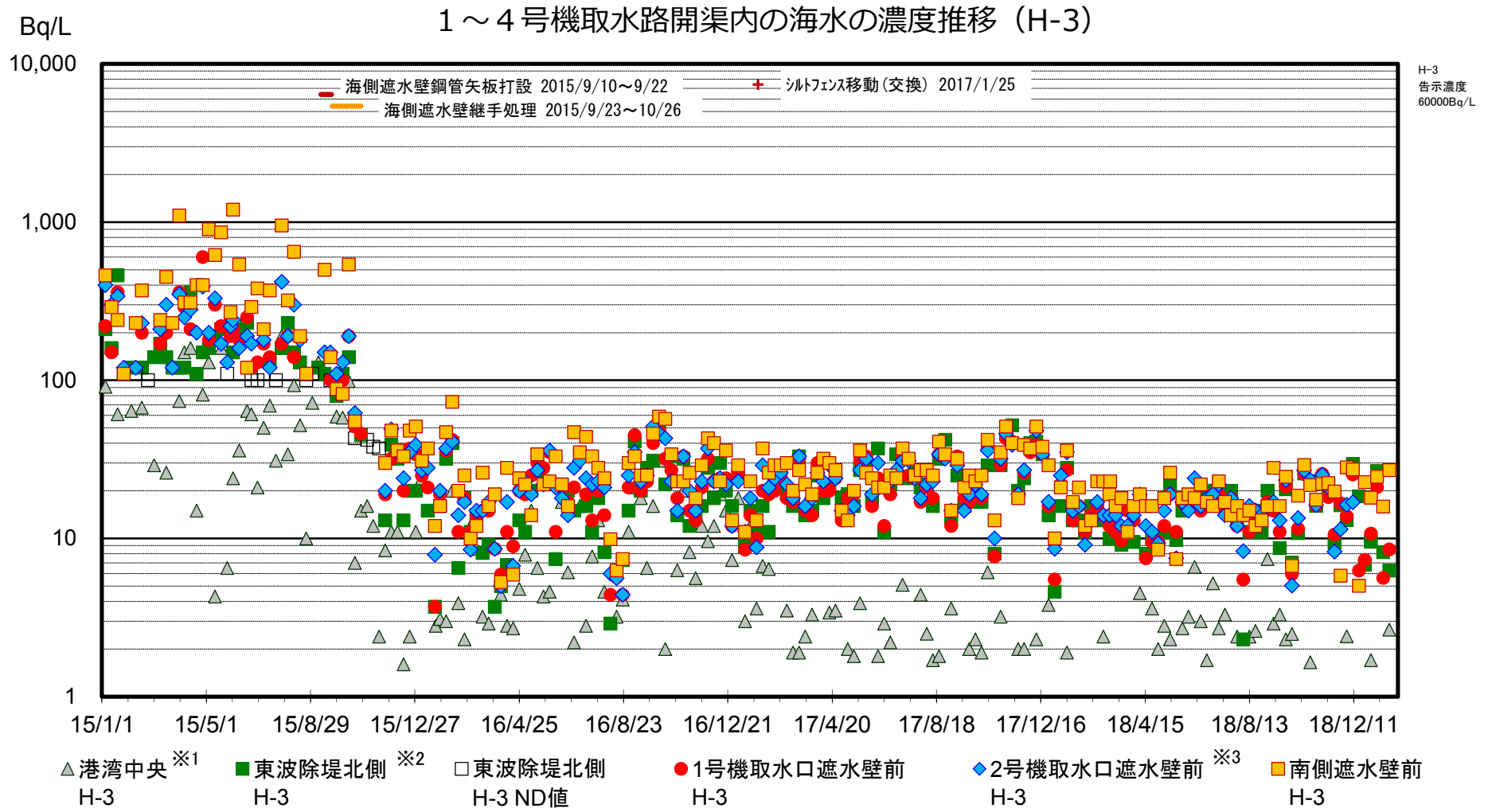
<港湾外エリア>

- 海側遮水壁鋼管矢板打設・継手処理の完了後、Cs-137濃度、Sr-90濃度の低下が見られ、低い濃度で推移していて変化は見られていない。

1～4号機取水路開渠内の海水の濃度推移 (1/3)



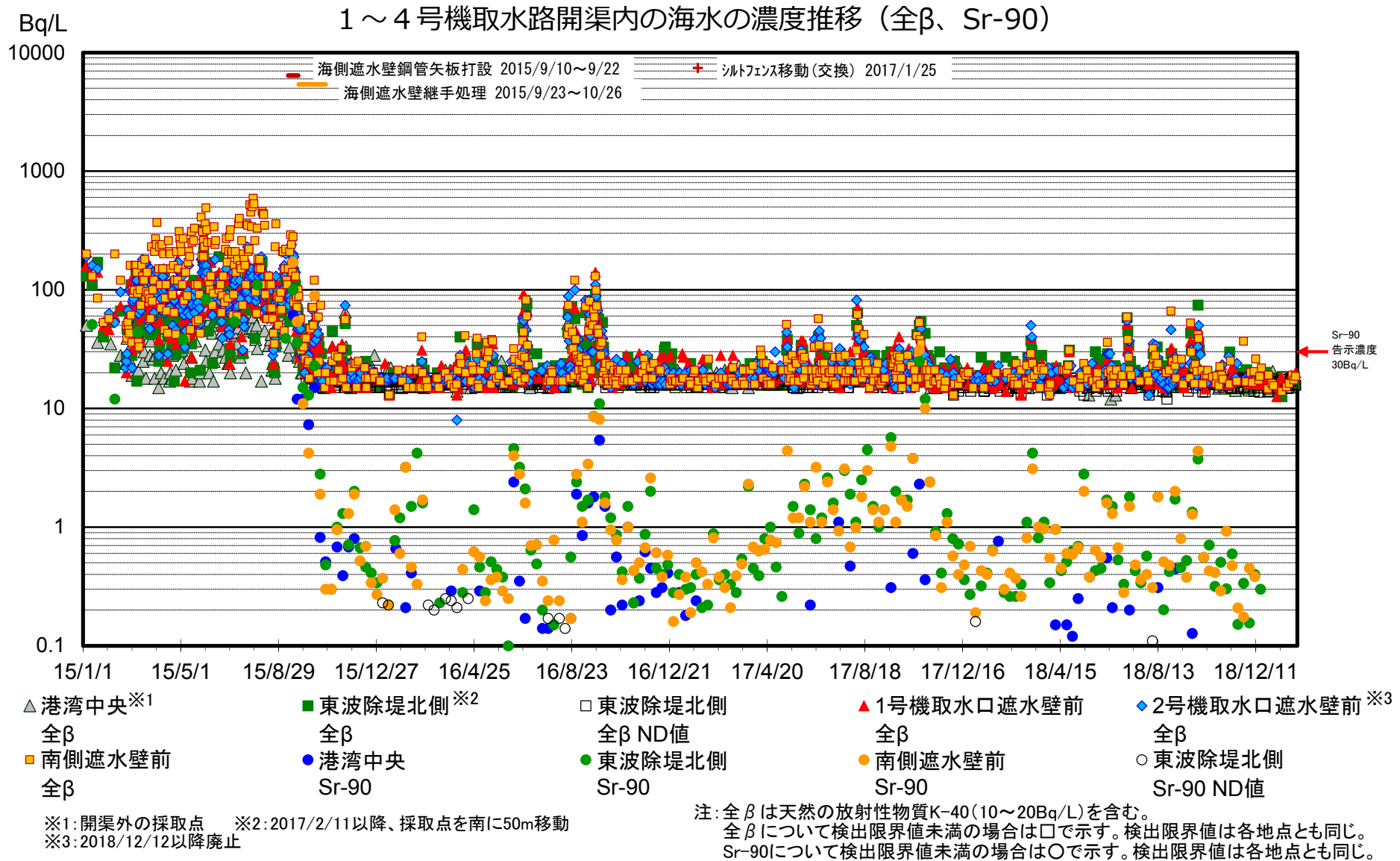
1～4号機取水路開渠内の海水の濃度推移 (2/3)



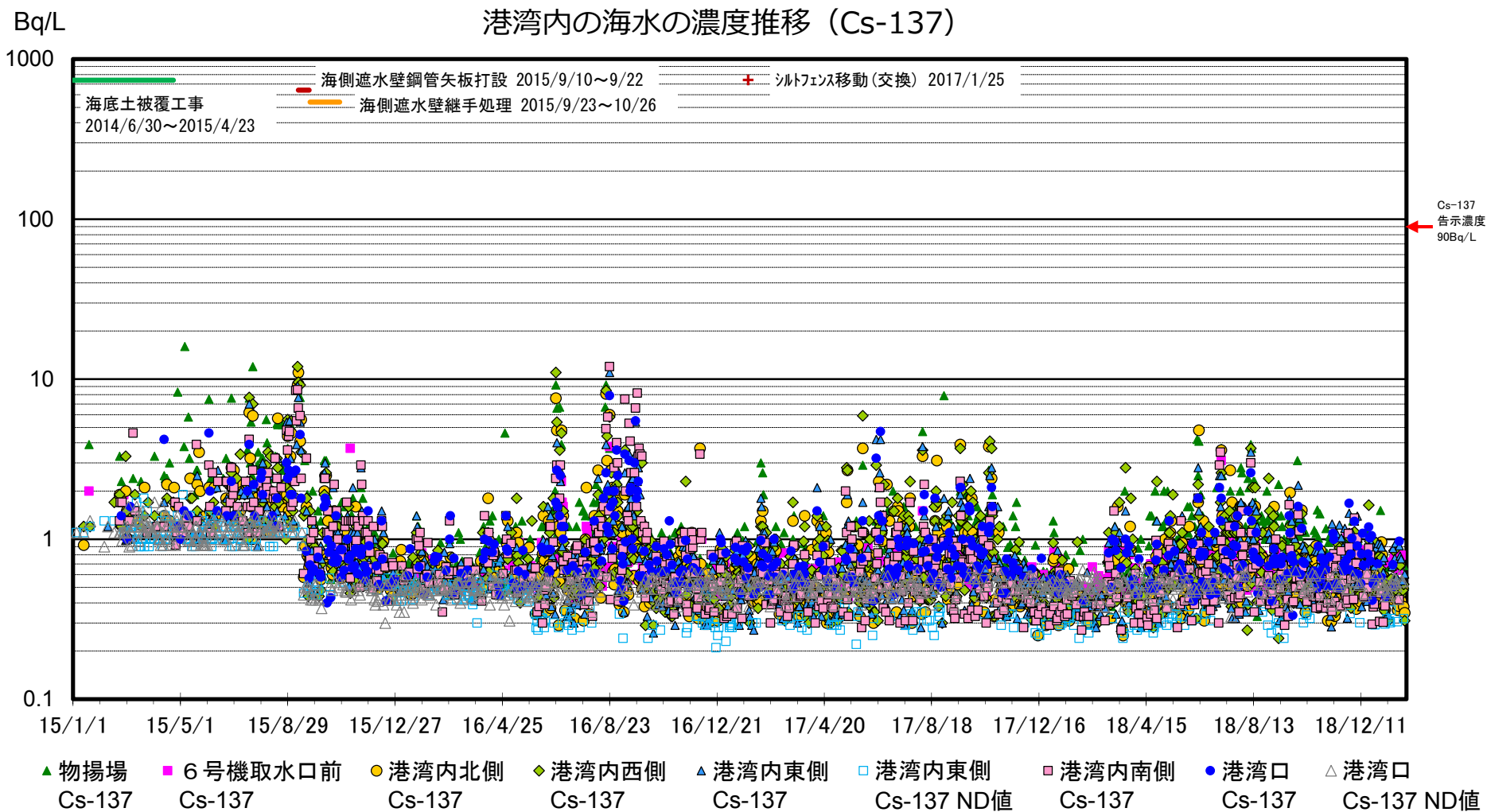
※1: 開渠外の採取点
 ※2: 2017/2/11以降、採取点を南に50m移動
 ※3: 2018/12/12以降廃止

注: 2015/11/23以降、検出限界値を見直し(50→3Bq/L)。
 検出限界値未満の場合は□で示す。検出限界値は各地点とも同じ。(但し、港湾中央は2Bq/L)

1～4号機取水路開渠内の海水の濃度推移 (3/3)

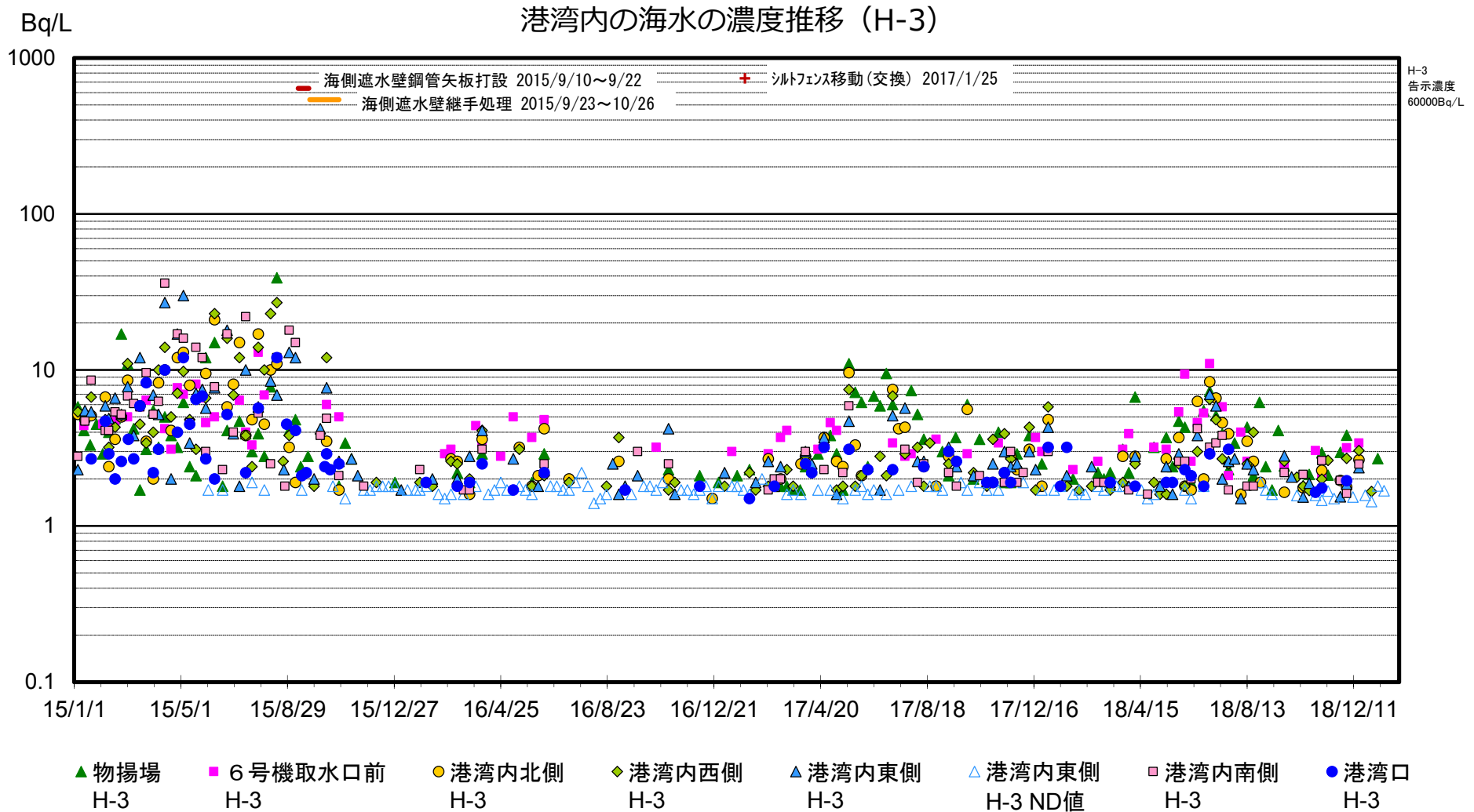


港湾内の海水の濃度推移 (1/3)

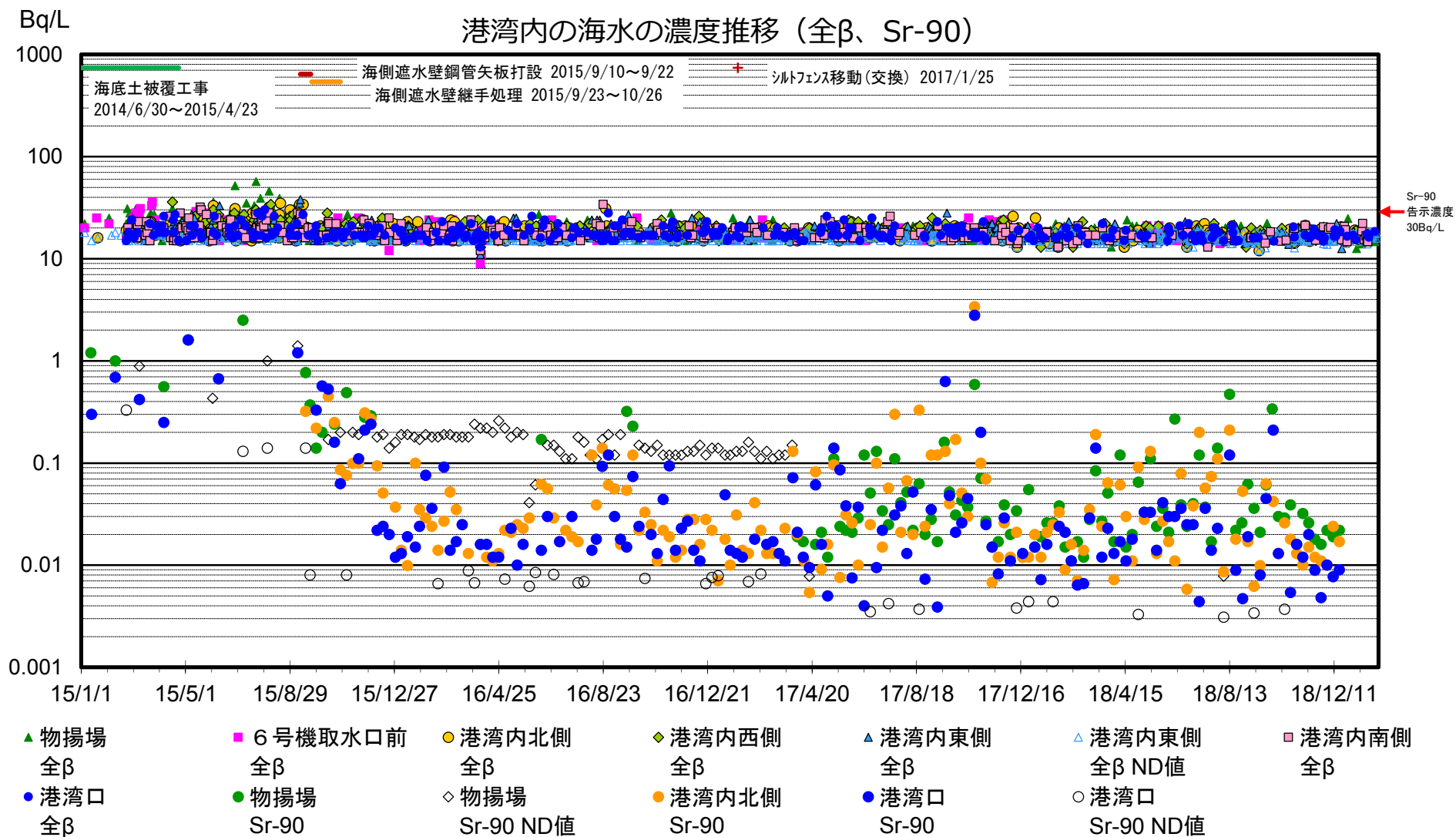


注: 2015/9/16以降、検出限界値を見直し(1.5→0.7Bq/L)。
 港湾口が検出限界値未満の場合は △ で示す。(検出限界値は物揚場、6号機取水口前も同等)
 港湾内北側・西側・東側・南側について2016/6/1以降、検出限界値を見直し(0.7→0.4Bq/L)。検出限界値未満の場合は □ で示す。

港湾内の海水の濃度推移 (2/3)

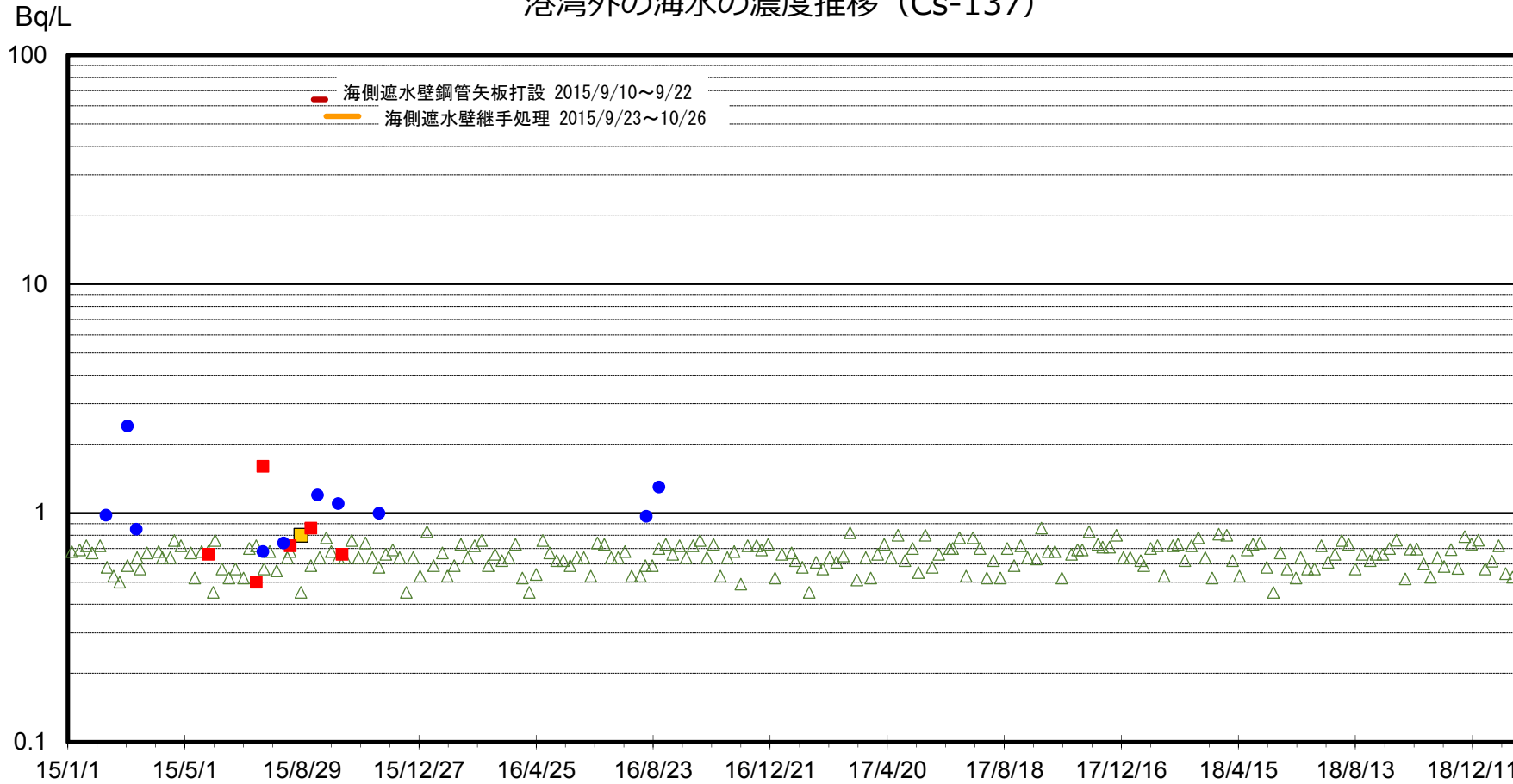


港湾内の海水の濃度推移 (3/3)



注: 全βは天然の放射性物質K-40(10~20Bq/L)を含む。全βについて、検出限界値未満の場合は△で示す(検出限界値は各地点とも同じ)。
 Sr-90について、物揚場が検出限界値未満の場合は◇で示す。2017/4/3以降、検出限界値を見直し(0.3→0.01Bq/L)。
 港湾口が検出限界値未満の場合は○で示す(検出限界値は港湾内北側も同じ)。

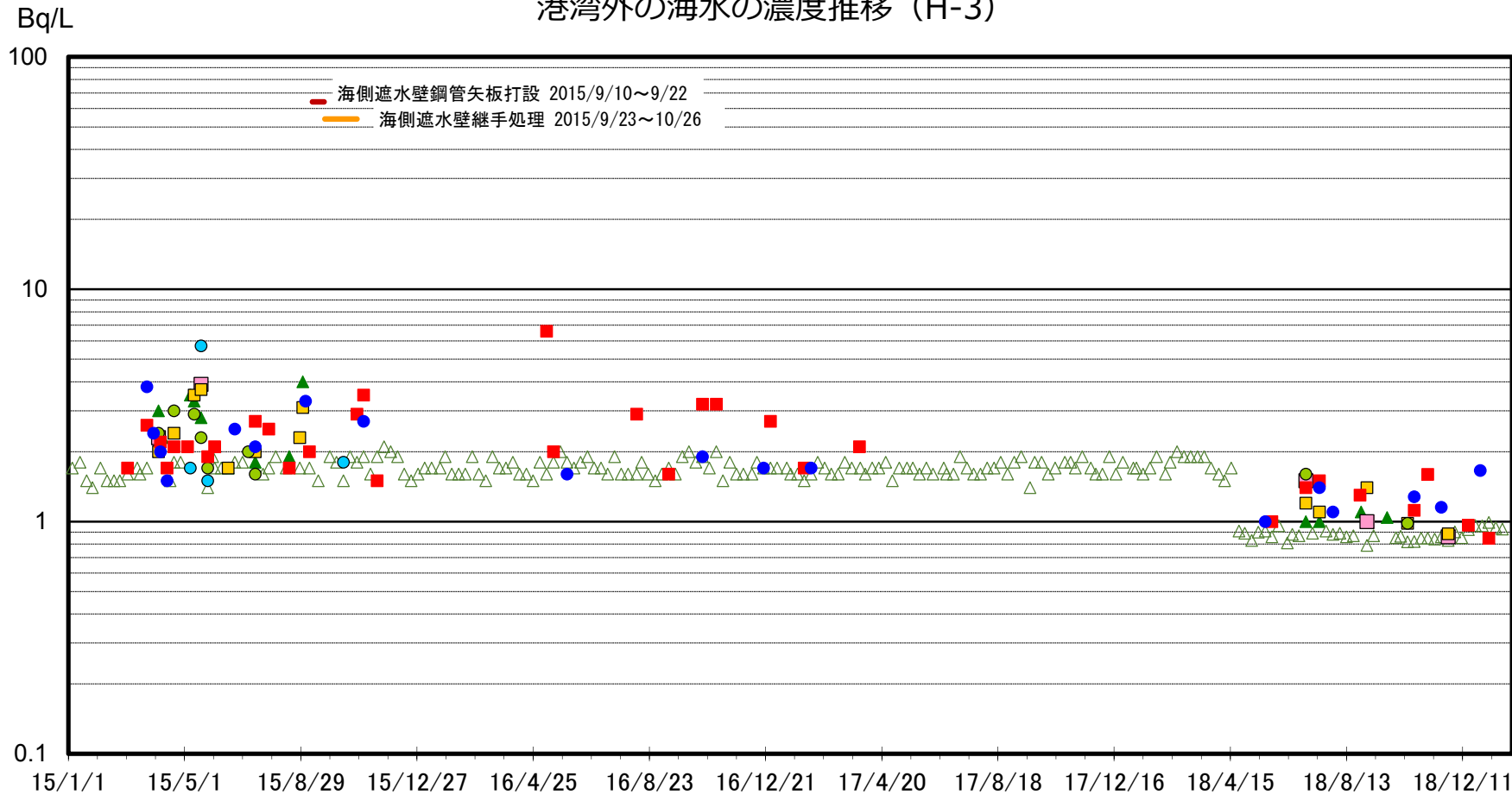
港湾外の海水の濃度推移 (Cs-137)



▲ 港湾口東側 Cs-137
 △ 港湾口東側 Cs-137 ND値
 ■ 港湾口北東側 Cs-137
 ■ 北防波堤北側 Cs-137
 ● 港湾口南東側 Cs-137
 ● 南防波堤南側 Cs-137
 ■ 5,6号機放水口北側 Cs-137
 ● 南放水口付近 Cs-137 [※]

※: 2016/9/5以降、護岸が崩落しアクセスが困難なため採水できず。 2016/9/21以降、南放水口より約330m南の地点(従来より約1km北)に変更。
 2017/1/27以降、南放水口より約280m南の地点に変更。 2018/3/23以降、南放水口より約320m南の地点に変更。

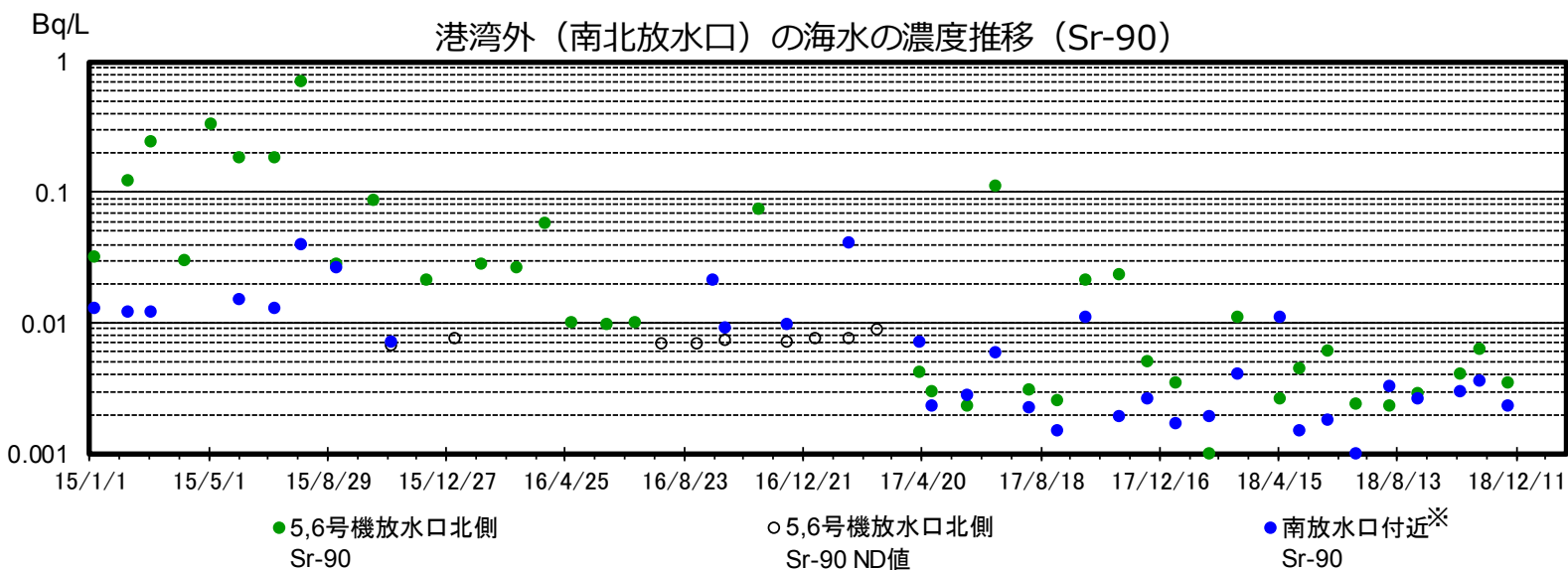
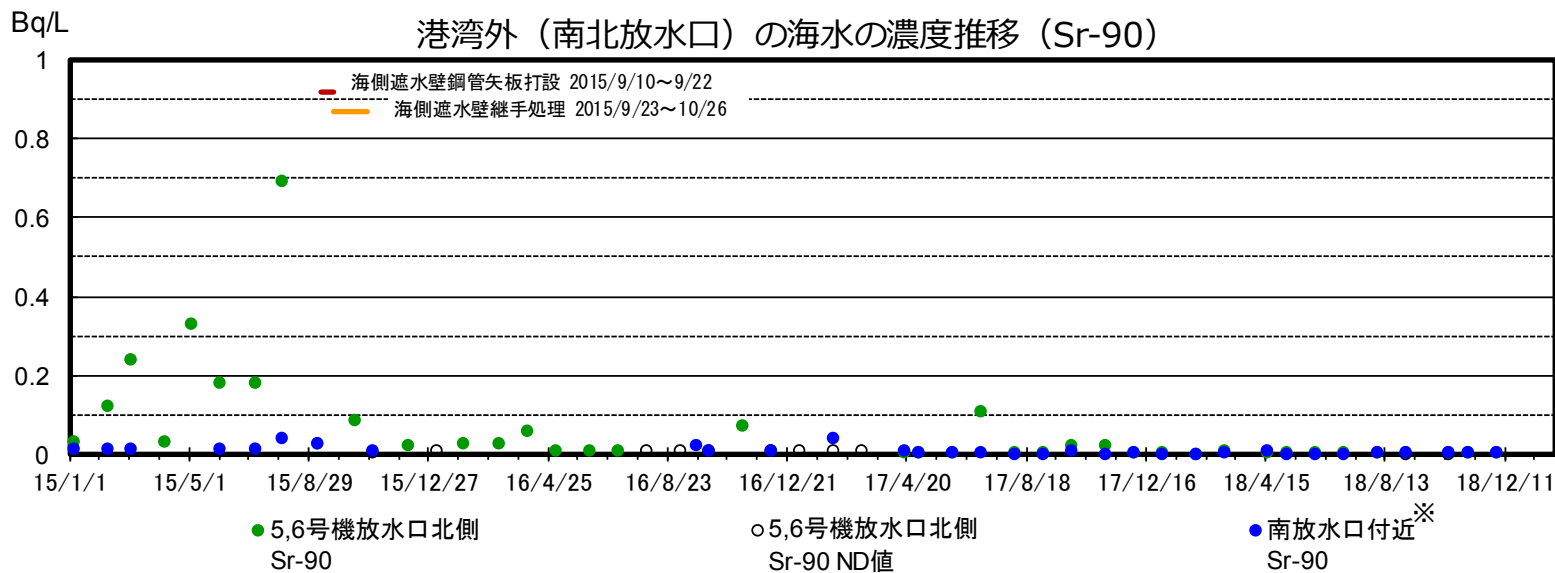
港湾外の海水の濃度推移 (H-3)



▲ 港湾口東側 H-3
 △ 港湾口東側 H-3 ND値
 ■ 港湾口北東側 H-3
 ■ 北防波堤北側 H-3
 ● 港湾口南東側 H-3
 ● 南防波堤南側 H-3
 ■ 5,6号機放水口北側 H-3
 ● 南放水口付近 H-3 [※]

※: 2016/9/5以降、護岸が崩落しアクセスが困難なため採水できず。 2016/9/21以降、南放水口より約330m南の地点(従来より約1km北)に変更。
 2017/1/27以降、南放水口より約280m南の地点に変更。 2018/3/23以降、南放水口より約320m南の地点に変更。

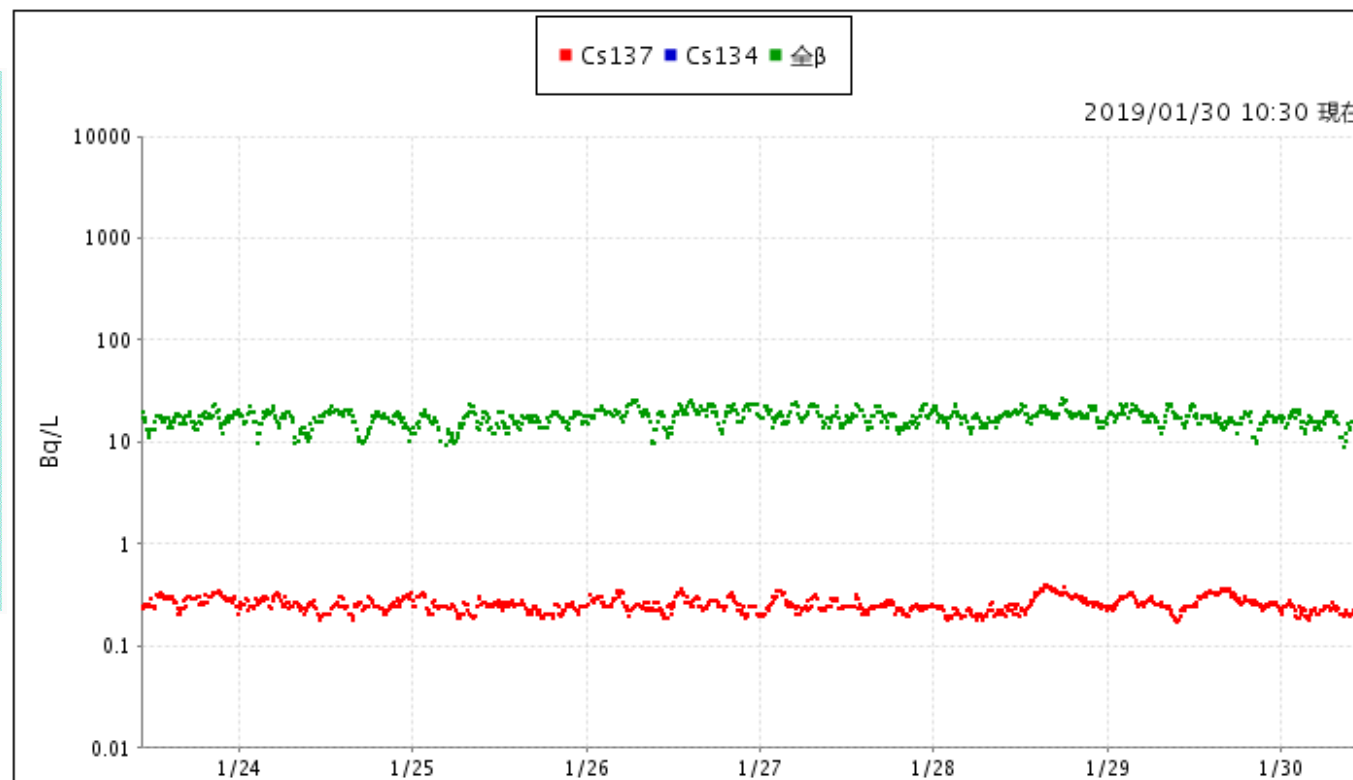
注: 2018/4/23以降、検出限界値を見直し(2→1Bq/L)。



注：2017/4/17以降、検出限界値を見直し(0.01→0.001Bq/L)。検出限界値未満の場合は○で示す。検出限界値は各地点とも同じ。

※：2016/9/5以降、護岸が崩落しアクセスが困難なため採水できず。2016/9/21以降、南放水口より約330m南の地点(従来より約1km北)に変更。2017/1/27以降、南放水口より約280m南の地点に変更。2018/3/23以降、南放水口より約320m南の地点に変更。

<参考> 港湾口海水モニタの測定結果



※検出限界値未満 (ND) の場合は、グラフにデータが表示されません。
(検出限界値)

- ・セシウム (Cs)134 : 0.02 Bq/L
- ・セシウム (Cs)137 : 0.05 Bq/L
- ・全β : 8.7 Bq/L

※海水放射線モニタは、荒天により海上が荒れた場合、巻き上がった海底砂の影響等により、データが変動する場合があります。

※参考 「福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防護に関する規則」に定める告示濃度限度は、以下の通り。

- ・セシウム (Cs)134 : 60 Bq/L
- ・セシウム (Cs)137 : 90 Bq/L

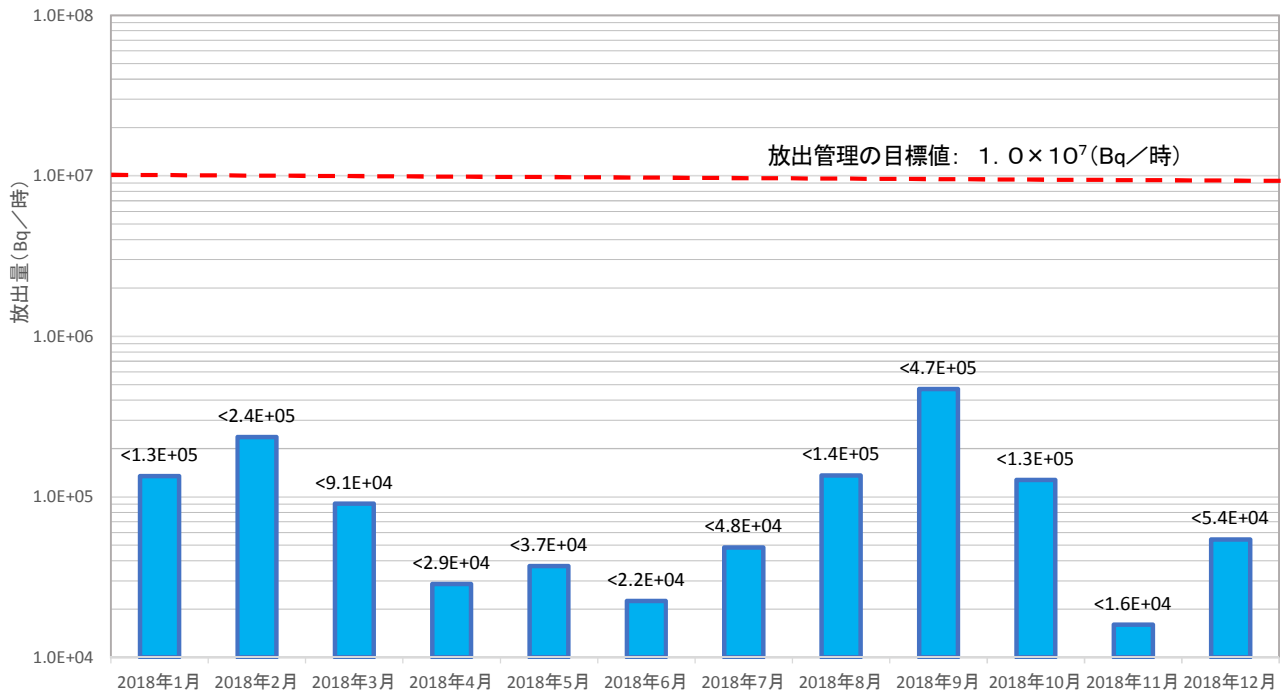
○ 設備の不具合および清掃・点検保守作業等により、データが欠測する場合があります。

原子炉建屋からの追加的放出量の評価結果(2018年12月)

【評価結果】

- 2018年12月における1～4号機原子炉建屋からの追加的放出量を評価した結果、 5.4×10^4 (Bq/時)未満であり、放出管理の目標値(1.0×10^7 Bq/時)を下回っていることを確認した。
- 本放出における敷地境界の空气中放射性物質濃度は、Cs-134: 2.8×10^{-12} (Bq/cm³)、Cs-137: 1.2×10^{-11} (Bq/cm³)であり、当該値が1年間継続した場合、敷地境界における被ばく線量は、年間0.00029mSv未満となる。

参考：核原料物質又は核燃料物質の製錬の事業に関する規則等の規定に基づく線量限度等を定める告示
 周辺監視区域外の空气中の濃度限度・・・Cs-134: 2×10^{-5} (Bq/cm³)、Cs-137: 3×10^{-5} (Bq/cm³)

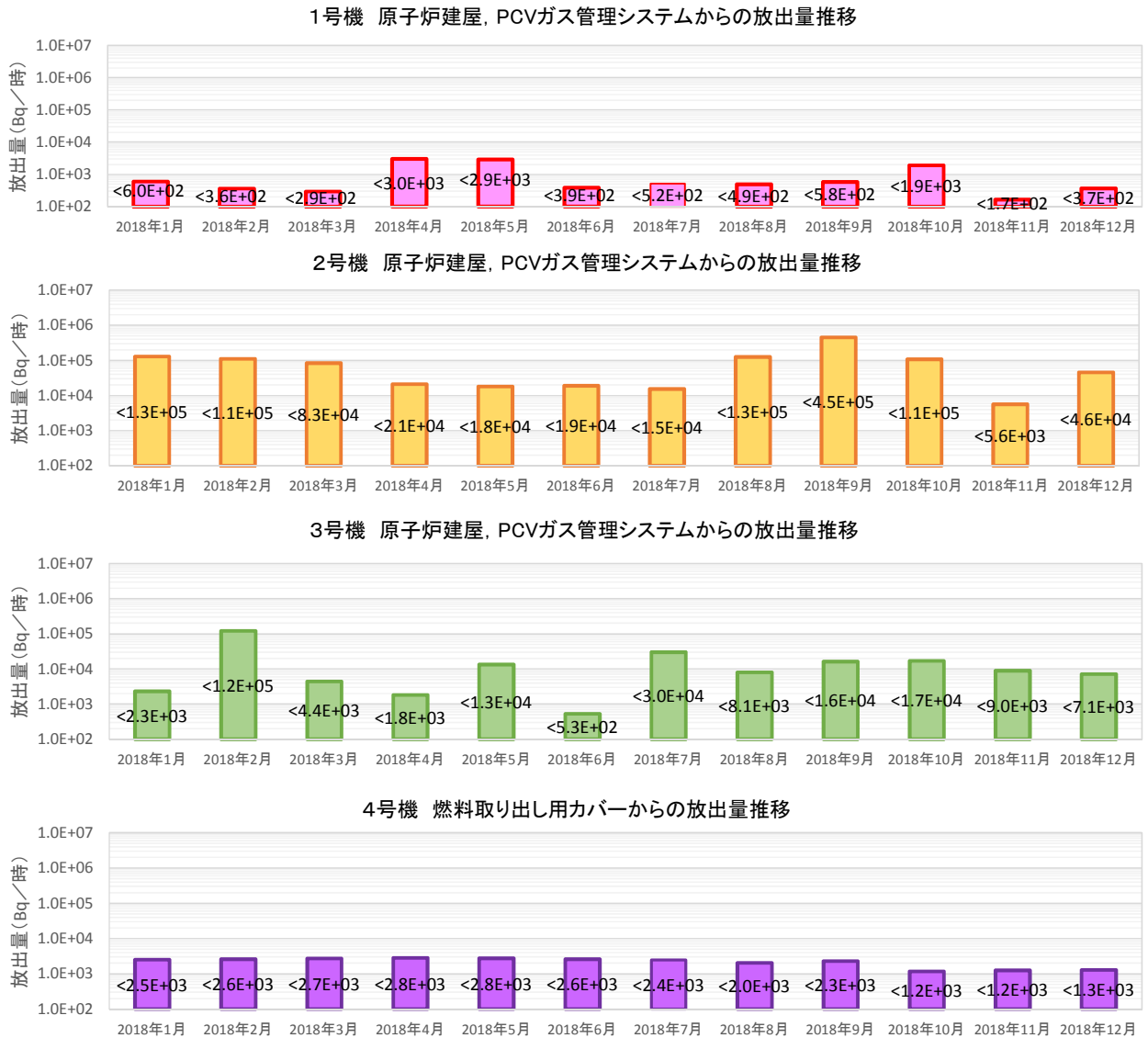


端数処理の都合上、合計が一致しない場合があります。

【評価手法】

- 1～4号機原子炉建屋からの放出量(セシウム)を、原子炉建屋上部等の空气中放射性物質濃度(ダスト濃度)、連続ダストモニタ及び気象データ等の値を基に評価を実施。(詳細な評価手法については別紙参照)
- 希ガスについては、格納容器ガス管理設備における分析結果から放出量を評価しているが、放出されるガンマ線実効エネルギーがセシウムに比べて小さく、被ばく経路も放射性雲の通過による外部被ばくのみとなるため、これによる被ばく線量は、セシウムによる被ばく線量に比べて小さいと評価している。

【各号機における放出量の推移】



《評価》

1, 3, 4号機については、11月とほぼ同程度の放出量であった。2号機については、作業期間外における開口の隙間及びフローアウトパネルの隙間の月一回の空气中放射性物質濃度の測定値が上がったため放出量が上昇した。

1～4号機原子炉建屋からの
追加的放出量評価結果 2018年12月評価分
(詳細データ)



東京電力ホールディングス株式会社

1. 放出量評価について (1)

■ 放出量評価値(12月評価分)

単位：Bq/時

	原子炉建屋上部		PCVガス管理システム			Cs-134,Cs-137合計値		
	Cs-134	Cs-137	Cs-134	Cs-137	希ガス	Cs-134	Cs-137	合計
1号機	1.1E+2未満	1.2E+2未満	7.2E+1未満	6.9E+1未満	1.2E+7	1.8E+2未満	1.9E+2未満	3.7E+2未満
2号機 作業期間外	5.2E+3未満	4.2E+4未満	3.8E+1未満	3.3E+1未満	5.2E+8	5.3E+3未満	4.2E+4未満	4.7E+4未満
2号機 オペフロ調査 期間中	3.2E+3未満	2.5E+4未満				3.2E+3未満	2.5E+4未満	2.8E+4未満
3号機	3.5E+3未満	3.6E+3未満	2.1E+1未満	2.3E+1	8.1E+8	3.5E+3未満	3.6E+3未満	7.1E+3未満
4号機	6.6E+2未満	6.3E+2未満	-	-	-	6.6E+2未満	6.3E+2未満	1.3E+3未満
合計			-			9.5E+3未満	4.5E+4未満	5.4E+4未満

端数処理の都合上、合計が一致しない場合があります。

※ 1～4号機のCs-134,Cs-137合計値は、2号機については作業期間外とオペフロ調査期間中の合計値を評価時間で按分の上加算した。

1. 放出量評価について (2)

■ 放出量評価値 (11月評価分)

単位：Bq/時

	原子炉建屋上部		PCVガス管理システム			Cs-134,Cs-137合計値		
	Cs-134	Cs-137	Cs-134	Cs-137	希ガス	Cs-134	Cs-137	合計
1号機	5.3E+1未満	5.8E+1未満	2.9E+1未満	2.6E+1未満	9.3E+6	8.2E+1未満	8.4E+1未満	1.7E+2未満
2号機 作業期間外	1.3E+3未満	2.1E+3未満	4.4E+1未満	4.7E+1未満	5.5E+8	1.4E+3未満	2.2E+3未満	3.5E+3未満
2号機 残置物撤去 作業期間中	3.4E+3未満	2.2E+4未満				3.4E+3未満	2.2E+4未満	2.6E+4未満
2号機 オペフロ調査 期間中	5.7E+3未満	4.6E+4未満				5.7E+3未満	4.6E+4未満	5.1E+4未満
3号機	3.4E+3未満	5.5E+3未満	2.8E+1未満	2.1E+1	7.8E+8	3.4E+3未満	5.5E+3未満	9.0E+3未満
4号機	7.3E+2未満	5.1E+2未満	—	—	—	7.3E+2未満	5.1E+2未満	1.2E+3未満
合計	—					5.8E+3未満	1.0E+4未満	1.6E+4未満

端数処理の都合上、合計が一致しない場合があります。

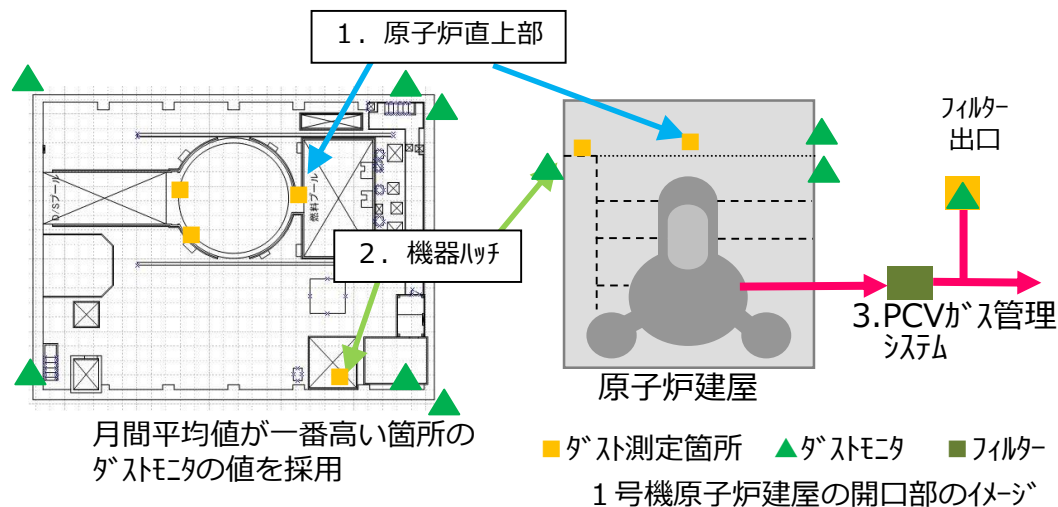
※ 1～4号機のCs-134,Cs-137合計値は、2号機については作業期間外と残置物撤去作業中とオペフロ調査期間中の合計値を評価時間で按分の上加算した。

2.1 1号機の放出量評価

1. 原子炉直上部

(1) ガス測定結果とガスモニタ値 (単位Bq/cm³)

採取日	核種	①原子炉 ウェル上部 北側	原子炉 ウェル上部 北西側	原子炉 ウェル上部 南側
12/3	Cs-134	ND(1.1E-7)	ND(9.9E-8)	ND(1.4E-7)
	Cs-137	ND(9.8E-8)	ND(9.9E-8)	ND(1.0E-7)



	②ガス採取期間	月間平均	相対比①/②	
ガスモニタ値	4.7E-6	3.9E-6	Cs-134	2.3E-2
			Cs-137	2.1E-2

(2) 月間漏洩率評価: 1.6E+2 m³/h

(2018年12月1日現在の崩壊熱より蒸気発生量(4.4E-2m³/s)を評価)

2. 建屋隙間

(1) ガス測定結果とガスモニタ値 (単位Bq/cm³)

採取日	核種	①機器ハッチ
12/3	Cs-134	ND(1.0E-7)
	Cs-137	1.1E-7

	②ガス採取期間	月間平均	相対比①/②	
ガスモニタ値	3.8E-6	3.2E-06	Cs-134	2.6E-2
			Cs-137	2.8E-2

(2) 月間漏洩率評価: 1.1E+3 m³/h

3. PCVガス管理システム

(1) ガス測定結果とガスモニタ値 (単位Bq/cm³)

採取日	核種	①PCVガス管理システム出口
12/3	Cs-134	ND(3.4E-6)
	Cs-137	ND(3.3E-6)

核種	PCVガス管理システム出口 月間平均値(Bq/cm ³)
Kr-85	5.6E-1

	②ガス採取期間 (cps)	月間平均 (cps)	相対比①/②	
ガスモニタ値	1.7E+1	1.7E+1	Cs-134	2.0E-7
			Cs-137	1.9E-7

(2) 月間平均流量結果: 2.1E+1 m³/h

4. 放出量評価

$$\begin{aligned}
 \text{原子炉直上部+建屋隙間(Cs-134)} &= 3.9E-6 \times 2.3E-2 \times 1.6E+2 \times 1E+6 + 3.2E-6 \times 2.6E-2 \times 1.1E+3 \times 1E+6 = 1.1E+2\text{Bq/時未満} \\
 \text{原子炉直上部+建屋隙間(Cs-137)} &= 3.9E-6 \times 2.1E-2 \times 1.6E+2 \times 1E+6 + 3.2E-6 \times 2.8E-2 \times 1.1E+3 \times 1E+6 = 1.2E+2\text{Bq/時未満} \\
 \text{PCVガス管理システム(Cs-134)} &= 1.7E+1 \times 2.0E-7 \times 2.1E+1 \times 1E+6 = 7.2E+1\text{Bq/時未満} \\
 \text{PCVガス管理システム(Cs-137)} &= 1.7E+1 \times 1.9E-7 \times 2.1E+1 \times 1E+6 = 6.9E+1\text{Bq/時未満} \\
 \text{PCVガス管理システム(Kr)} &= 5.6E-1 \times 2.1E+1 \times 1E+6 = 1.2E+7\text{Bq/時} \\
 \text{PCVガス管理システム(Kr被ばく線量)} &= 1.2E+7 \times 24 \times 365 \times 2.5E-19 \times 0.0022/0.5 \times 1E+3 = 1.1E-7\text{mSv/年}
 \end{aligned}$$

端数処理の都合上、合計が一致しない場合があります。

2.2 2号機の放出量評価 作業期間外

1. 排気設備

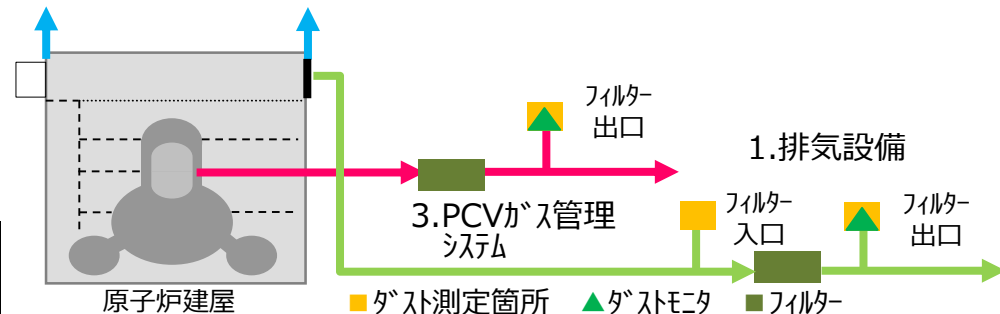
(1) ガス測定結果とガスモニタ値 (単位Bq/cm³)

採取日	核種	①排気設備出口
12/11	Cs-134	ND(1.2E-7)
	Cs-137	ND(1.0E-7)

	②ガス採取期間	月間平均	相对比①/②	
ガスモニタ値	2.1E-7	2.1E-7	Cs-134	5.7E-1
			Cs-137	4.7E-1

(2) 月間排気設備流量 : 1.0E+4 m³/h

2. 開口の隙間及びブローアウトバルブの隙間



2号機原子炉建屋の開口部のイメージ

2. 開口の隙間及びブローアウトバルブの隙間

(1) ガス測定結果 (単位Bq/cm³)

採取日	核種	排気設備入口
12/7	Cs-134	3.6E-6
	Cs-137	3.6E-5

(2) 月間漏洩率評価 : 1.1E+3 m³/h

3. PCVガス管理システム

(1) ガス測定結果とガスモニタ値 (単位Bq/cm³)

採取日	核種	①PCVガス管理システム出口
12/14	Cs-134	ND(1.1E-6)
	Cs-137	ND(9.8E-7)

核種	PCVガス管理システム出口 月間平均値(Bq/cm ³)
Kr-85	3.7E+1

	②ガス採取期間	月間平均	相对比①/②	
ガスモニタ値	7.4E-7	1.8E-6	Cs-134	1.5E+0
			Cs-137	1.3E+0

(2) 月間平均流量結果 : 1.4E+1 m³/h

4. 放出量評価

排気設備出口+開口の隙間及びブローアウトバルブの隙間(Cs-134)

排気設備出口+開口の隙間及びブローアウトバルブの隙間(Cs-137)

PCVガス管理システム(Cs-134)

PCVガス管理システム(Cs-137)

PCVガス管理システム(Kr)

PCVガス管理システム(Kr被ばく線量)

$$\begin{aligned}
 &= 2.1E-7 \times 5.7E-1 \times 1.0E+4 \times 1E+6 + 3.6E-6 \times 1.1E+3 \times 1E+6 = 5.2E+3Bq/時未満 \\
 &= 2.1E-7 \times 4.7E-1 \times 1.0E+4 \times 1E+6 + 3.6E-5 \times 1.1E+3 \times 1E+6 = 4.2E+4Bq/時未満 \\
 &= 1.8E-6 \times 1.5E+0 \times 1.4E+1 \times 1E+6 = 3.8E+1Bq/時未満 \\
 &= 1.8E-6 \times 1.3E+0 \times 1.4E+1 \times 1E+6 = 3.3E+1Bq/時未満 \\
 &= 3.7E+1 \times 1.4E+1 \times 1.0E+6 = 5.2E+8Bq/時 \\
 &= 5.2E+8 \times 24 \times 365 \times 2.4E-19 \times 0.0022/0.5 \times 1E+3 = 4.8E-6mSv/年
 \end{aligned}$$

端数処理の都合上、合計が一致しない場合があります。

2.2 2号機の放出量評価

オペフロ調査期間中：13日間作業して1日4時間

1. 排気設備

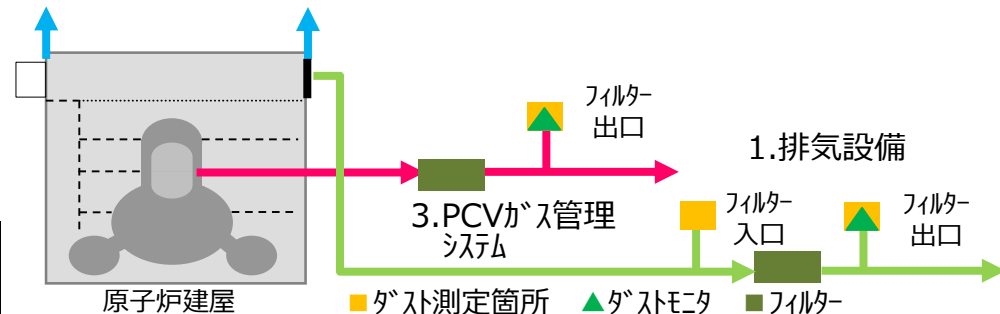
(1) ガス測定結果とガスモニタ値 (単位Bq/cm³)

採取日	核種	①排気設備出口
12/11	Cs-134	ND(1.2E-7)
	Cs-137	ND(1.0E-7)

	②ガス採取期間	月間平均	相对比①/②	
ガスモニタ値	2.1E-7	2.1E-7	Cs-134	5.7E-1
			Cs-137	4.7E-1

(2) 月間排気設備流量：1.0E+4 m³/h

2. 開口の隙間及びグローアウトパールの隙間



2号機原子炉建屋の開口部のイメージ

2. 開口の隙間及びグローアウトパールの隙間

(1) ガス測定結果 (単位Bq/cm³)

採取日	核種	排気設備入口
12/11	Cs-134	1.8E-6
	Cs-137	2.1E-5

(2) 月間漏洩率評価：1.1E+3 m³/h

3. PCVガス管理システム

(1) ガス測定結果とガスモニタ値 (単位Bq/cm³)

採取日	核種	①PCVガス管理システム出口
12/14	Cs-134	ND(1.1E-6)
	Cs-137	ND(9.8E-7)

核種	PCVガス管理システム出口 月間平均値(Bq/cm ³)
Kr-85	3.7E+1

	②ガス採取期間	月間平均	相对比①/②	
ガスモニタ値	7.4E-7	1.8E-6	Cs-134	1.5E+0
			Cs-137	1.3E+0

(2) 月間平均流量結果：1.4E+1 m³/h

4. 放出量評価

排気設備出口+開口の隙間及びグローアウトパール隙間(Cs-134)
 排気設備出口+開口の隙間及びグローアウトパール隙間(Cs-137)
 PCVガス管理システム(Cs-134)
 PCVガス管理システム(Cs-137)
 PCVガス管理システム(Kr)
 PCVガス管理システム(Kr被ばく線量)

$$\begin{aligned}
 &= 2.1E-7 \times 5.7E-1 \times 1.0E+4 \times 1E+6 + 1.8E-6 \times 1.1E+3 \times 1E+6 = 3.2E+3\text{Bq/時未満} \\
 &= 2.1E-7 \times 4.7E-1 \times 1.0E+4 \times 1E+6 + 2.1E-5 \times 1.1E+3 \times 1E+6 = 2.5E+4\text{Bq/時未満} \\
 &= 1.8E-6 \times 1.5E+0 \times 1.4E+1 \times 1E+6 = 3.8E+1\text{Bq/時未満} \\
 &= 1.8E-6 \times 1.3E+0 \times 1.4E+1 \times 1E+6 = 3.3E+1\text{Bq/時未満} \\
 &= 3.7E+1 \times 1.4E+1 \times 1E+6 = 5.2E+8\text{Bq/時} \\
 &= 5.2E+8 \times 24 \times 365 \times 2.4E-19 \times 0.0022/0.5 \times 1E+3 = 4.8E-6\text{mSv/年}
 \end{aligned}$$

端数処理の都合上、合計が一致しない場合があります。

2.3 3号機の放出量評価 (1)

1. 原子炉直上部

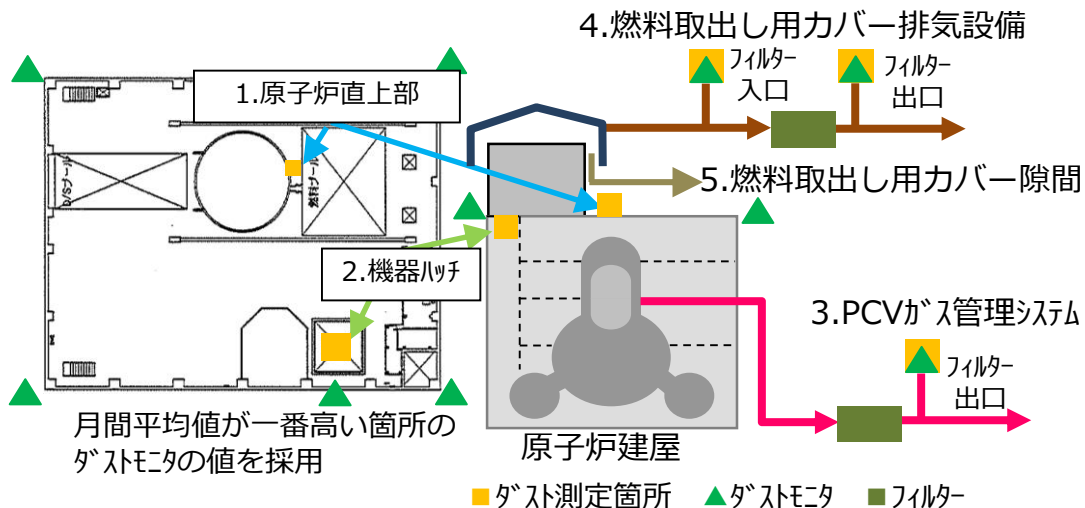
(1) ガス測定結果とガスモニタ値 (単位Bq/cm³)

採取日	核種	①南西
12/10	Cs-134	ND(1.0E-7)
	Cs-137	5.8E-7

	②ガス採取期間	月間平均	相対比①/②	
ガス	2.7E-6	3.3E-6	Cs-134	3.8E-2
モニタ			Cs-137	2.1E-1

(2) 月間漏洩率評価 : 1.9E+2 m³/h

(2018年12月1日現在の崩壊熱より蒸気発生量(5.3E-2m³/s)を評価) 3号機原子炉建屋の開口部のイメージ



2. 機器ハッチ

(1) ガス測定結果とガスモニタ値 (単位Bq/cm³)

採取日	核種	①機器ハッチ
12/10	Cs-134	ND(9.6E-8)
	Cs-137	3.5E-7

	②ガス採取期間	月間平均	相対比①/②	
ガス	5.8E-6	4.1E-6	Cs-134	1.7E-2
モニタ値			Cs-137	6.0E-2

(2) 月間漏洩率評価 : 2.7E+3 m³/h

3. PCVガス管理システム

(1) ガス測定結果とガスモニタ値 (単位Bq/cm³)

採取日	核種	①PCVガス管理システム出口	核種	PCVガス管理システム出口 月間平均値(Bq/cm ³)
12/10	Cs-134	ND(1.1E-6)	Kr-85	4.3E+1
	Cs-137	1.3E-6		

	②ガス採取期間	月間平均	相対比①/②	
ガス	1.9E-5	1.8E-5	Cs-134	6.0E-2
モニタ値			Cs-137	6.8E-2

(2) 月間平均流量結果 : 1.9E+1 m³/h

2.3 3号機の放出量評価（2）

4. 燃料取出し用カバー-隙間

(1) ガス測定結果（単位Bq/cm³）

採取日	核種	①排気設備入口
12/10	Cs-134	ND(1.2E-7)
	Cs-137	8.1E-8

	②ガス採取期間	月間平均	相対比①/②	
ガス モニタ	4.8E-6	3.9E-6	Cs-134	2.4E-2
			Cs-137	1.7E-2

(2) 月間漏洩率評価 : 3.9E+2 m³/h

5. 燃料取出し用カバー-排気設備

(1) ガス測定結果とガスモニタ値（単位Bq/cm³）

採取日	核種	①排気設備出口
12/10	Cs-134	ND(1.1E-7)
	Cs-137	ND(9.4E-8)

	②ガス採取期間	月間平均	相対比①/②	
ガス モニタ値	5.0E-6	4.9E-6	Cs-134	2.2E-2
			Cs-137	1.9E-2

(2) 月間排気設備流量 : 3.0E+4 m³/h

6. 放出量評価

$$\begin{aligned}
 & \text{原子炉直上部+機器ハッチ+燃料取出し用カバー-隙間+燃料取出し用カバー-排気設備(Cs-134)} \\
 & = 3.3\text{E-6} \times 3.8\text{E-2} \times 1.9\text{E+2} \times 1\text{E+6} + 4.1\text{E-6} \times 1.7\text{E-2} \times 2.7\text{E+3} \times 1\text{E+6} \\
 & \quad + 3.9\text{E-6} \times 2.4\text{E-2} \times 3.9\text{E+2} \times 1\text{E+6} + 4.9\text{E-6} \times 2.2\text{E-2} \times 3.0\text{E+4} \times 1\text{E+6} = 3.5\text{E+3Bq/時未満} \\
 & \text{原子炉直上部+機器ハッチ+燃料取出し用カバー-隙間+燃料取出し用カバー-排気設備(Cs-137)} \\
 & = 3.3\text{E-6} \times 2.1\text{E-1} \times 1.9\text{E+2} \times 1\text{E+6} + 4.1\text{E-6} \times 6.0\text{E-2} \times 2.7\text{E+3} \times 1\text{E+6} \\
 & \quad + 3.9\text{E-6} \times 1.7\text{E-2} \times 3.9\text{E+2} \times 1\text{E+6} + 4.9\text{E-6} \times 1.9\text{E-2} \times 3.0\text{E+4} \times 1\text{E+6} = 3.6\text{E+3Bq/時未満} \\
 & \text{PCVガス管理システム(Cs-134)} = 1.8\text{E-5} \times 6.0\text{E-2} \times 1.9\text{E+1} \times 1\text{E+6} = 2.1\text{E+1Bq/時未満} \\
 & \text{PCVガス管理システム(Cs-137)} = 1.8\text{E-5} \times 6.8\text{E-2} \times 1.9\text{E+1} \times 1\text{E+6} = 2.3\text{E+1Bq/時} \\
 & \text{PCVガス管理システム(Kr)} = 4.3\text{E+1} \times 1.9\text{E+1} \times 1\text{E+6} = 8.1\text{E+8Bq/時} \\
 & \text{PCVガス管理システム(Kr被ばく線量)} = 8.1\text{E+8} \times 24 \times 365 \times 3.0\text{E-19} \times 0.0022/0.5 \times 1\text{E+3} = 9.3\text{E-6mSv/年}
 \end{aligned}$$

端数処理の都合上、合計が一致しない場合があります。

1. 燃料取出し用ガレ-隙間

(1) ガス測定結果とガスモニタ値 (単位Bq/cm³)

採取日	核種	①SFP近傍	エンジン プレイス近傍	ガレ-上部
12/14	Cs-134	ND(9.9E-8)	ND(1.3E-7)	ND(1.0E-7)
	Cs-137	ND(9.6E-8)	ND(9.5E-8)	ND(9.7E-8)

	②ガス採取期間	月間平均	相对比①/②	
ガスモニタ値	7.9E-7	5.8E-7	Cs-134	1.3E-1
			Cs-137	1.2E-1

ガス測定結果及び相对比より、放出量が最大となる箇所を採用

(2) 月間漏洩率評価 : 4.0E+3 m³/h

2. 燃料取出し用ガレ-排気設備

(1) ガス測定結果とガスモニタ値 (単位Bq/cm³)

採取日	核種	①排気設備出口	②ガス採取期間	月間平均	相对比①/②	
12/14	Cs-134	ND(1.1E-8)	ガスモニタ値	1.9E-7	Cs-134	4.0E-2
	Cs-137	ND(9.9E-9)			Cs-137	3.7E-2

(2) 月間排気設備流量 : 5.0E+4 m³/h

3. 放出量評価

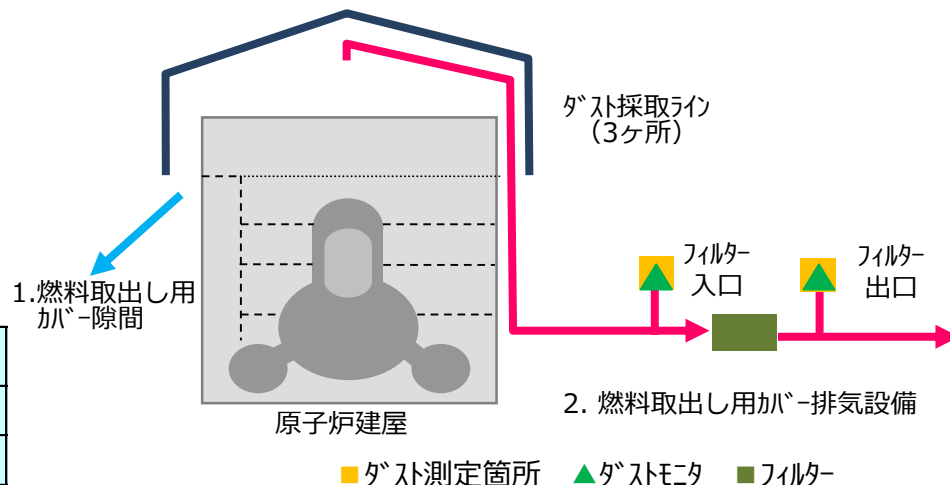
燃料取出し用ガレ-隙間+燃料取出し用ガレ-排気設備(Cs-134)

$$= 5.8E-7 \times 1.3E-1 \times 4.0E+3 \times 1E+6 + 1.9E-7 \times 4.0E-2 \times 5.0E+4 \times 1E+6 = 6.6E+2 \text{Bq/時未満}$$

燃料取出し用ガレ-隙間+燃料取出し用ガレ-排気設備(Cs-137)

$$= 5.8E-7 \times 1.2E-1 \times 4.0E+3 \times 1E+6 + 1.9E-7 \times 3.7E-2 \times 5.0E+4 \times 1E+6 = 6.3E+2 \text{Bq/時未満}$$

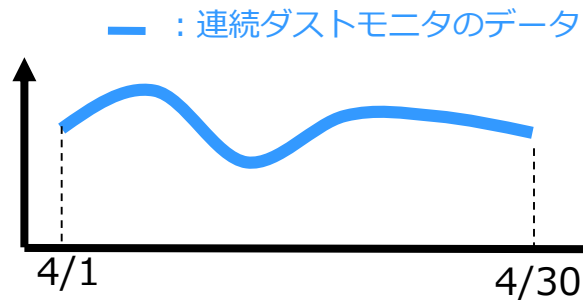
端数処理の都合上、合計が一致しない場合があります。



- 月1回の空気中放射性物質濃度測定値と連続ダストモニタのデータから連続性を考慮した空気中放射性物質濃度を評価

STEP1 月間の連続ダストモニタのトレンドを確認

※連続ダストモニタは、
全βのため被ばく評価に使用できない

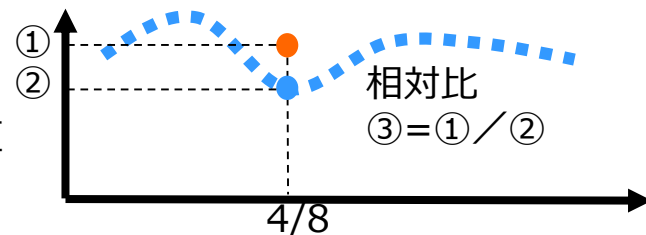


STEP2 月1回の空気中放射性物質濃度測定値と連続ダストモニタの値を比較

- 例 4月8日に月1回の空気中放射性物質濃度測定 . . . ①
→核種毎 (Cs134.137) にデータが得られる
- 同時刻の連続ダストモニタの値を確認 . . . ②
- 上記2つのデータの比を評価 . . . ③

● : 空気中放射性物質濃度測定結果
● : 4月8日の連続ダストモニタデータ

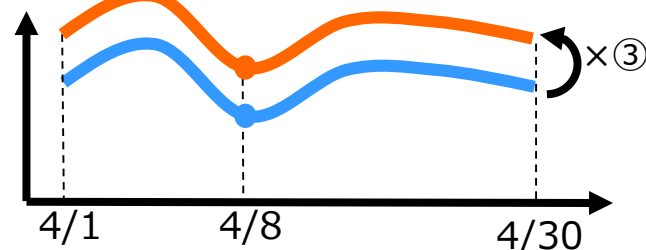
③相対比=①空気中放射性物質濃度 / ②ダストモニタの値



STEP3 連続性を考慮した空気中放射性物質濃度を評価

- 連続ダストモニタのデータに③相対比を乗じて、
連続性を考慮した空気中放射性物質濃度を評価

— : 連続性を考慮した空気中放射性物質濃度
— : 連続ダストモニタデータ



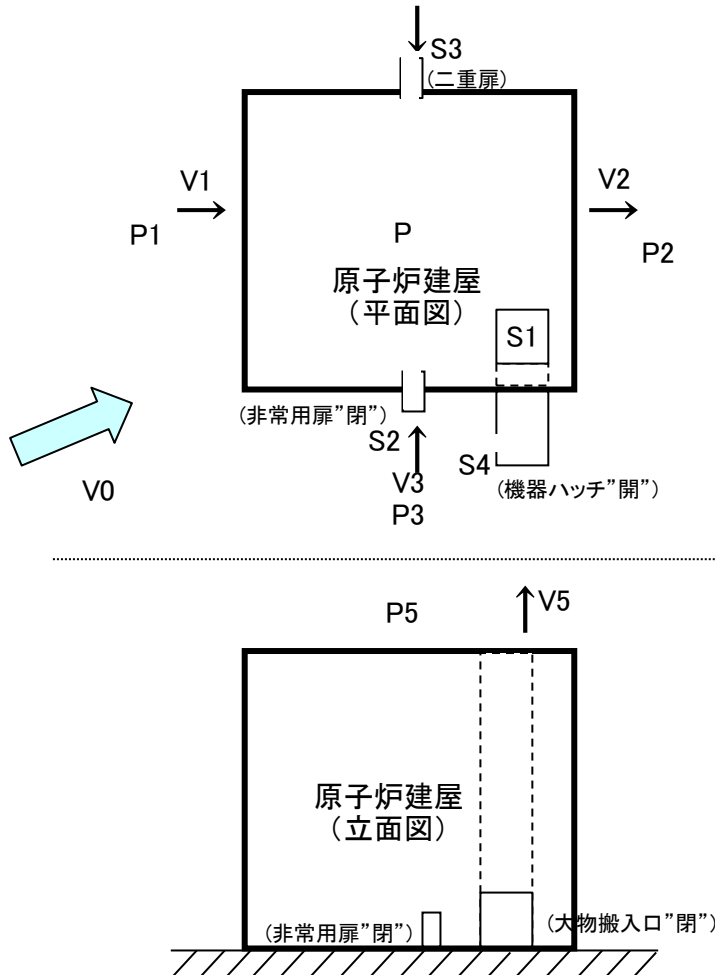
評価方法

空気漏洩量は外部風速、建屋内外圧差、隙間面積などから計算で求める。

計算例

12月31日

北北西風 1.2m/s



- V0: 外気風速 (m/s)
- V1: 建屋流出入風速 (m/s)
- V2: 建屋流出入風速 (m/s)
- V3: 建屋流出入風速 (m/s)
- V4: 建屋流出入風速 (m/s)
- V5: 建屋流出入風速 (m/s)
- V6: 建屋流出入風速 (m/s)
- P1: 上流側圧力 (北風) (Pa)
- P2: 下流側圧力 (北風) (Pa)
- P3: 上流側圧力 (西風) (Pa)
- P4: 下流側圧力 (西風) (Pa)
- P5: 上面部圧力 (Pa)
- P6: T/B内圧力 (0Pa)
- P: 建屋内圧力 (Pa)
- S1: 機器ハッチ隙間面積 (m²)
- S2: R/B非常用扉開口面積 (m²)
- S3: R/B二重扉開口面積 (m²)
- S4: R/B大物搬入口横扉 (m²)
- ρ : 空気密度 (kg/m³)
- C1: 風圧係数 (北風上側)
- C2: 風圧係数 (北風下側)
- C3: 風圧係数 (西風上側)
- C4: 風圧係数 (西風下側)
- C5: 風圧係数 (上面部)
- ζ : 形状抵抗係数

風速をVとすると、上流側、下流側の圧力は次のとおりとなる。

- 上流側(北風) : $P1=C1 \times \rho \times V0^2/(2g)$... (1)
- 下流側(北風) : $P2=C2 \times \rho \times V0^2/(2g)$... (2)
- 上流側(西風) : $P3=C3 \times \rho \times V0^2/(2g)$... (3)
- 下流側(西風) : $P4=C4 \times \rho \times V0^2/(2g)$... (4)
- 上面部 : $P5=C5 \times \rho \times V0^2/(2g)$... (5)

内圧をP、隙間部の抵抗係数をζ とすると

- $P1-P=\zeta \times \rho \times V1^2/(2g)$... (6)
- $P-P2=\zeta \times \rho \times V2^2/(2g)$... (7)
- $P3-P=\zeta \times \rho \times V3^2/(2g)$... (8)
- $P-P4=\zeta \times \rho \times V4^2/(2g)$... (9)
- $P-P5=\zeta \times \rho \times V5^2/(2g)$... (10)
- $P6-P=\zeta \times \rho \times V6^2/(2g)$... (11)

空気流入量のマスバランス式は

$$(V1 \times S4 + V3 \times S2 + V6 \times S3) \times 3600 = (V2 \times 0 + V4 \times 0 + V5 \times S1) \times 3600$$

左辺と右辺の差を「Y」とすると

$$Y = (V1 \times S4 + V3 \times S2 + V6 \times S3) \times 3600 - (V2 \times 0 + V4 \times 0 + V5 \times S1) \times 3600$$

V1, V2, V3, V4, V5, V6は(6), (7), (8), (9), (10), (11)式により、Pの関数なので、「Y」がゼロになるようにPの値を調整する

V0 (m/s)	C1	C2	C3	C4	C5	ζ	ρ (kg/m ³)
1.15	0.80	-0.50	0.10	-0.50	-0.40	2.00	1.20
S1 (m ²)	S2 (m ²)	S3 (m ²)	S4 (m ²)				
25.48	0.00	0.29	0.10				

P1 (Pa)	P2 (Pa)	P3 (Pa)	P4 (Pa)	P5 (Pa)	P6 (Pa)	P (Pa)
0.06521	-0.04076	0.008151	-0.04076	-0.0326	0	-0.03259

V1 (m/s)	V2 (m/s)	V3 (m/s)	V4 (m/s)	V5 (m/s)	V6 (m/s)	Y (m ³ /h)
0.89	0.26	0.58	0.26	0.01	0.52	0.00
IN	OUT	IN	OUT	OUT	IN	OK

※IN : 流入
OUT: 流出

週ごとの漏洩量評価（一例）

	12月29日			12月30日			12月31日			1月1日			1月2日			1月3日			1月4日		
	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)
西風	1.3	0.5	627	0.5	0.2	235	1.0	1.8	474	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
西北西風	1.5	5.7	993	1.5	2.2	956	1.8	9.0	1,189	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
北西風	1.5	3.5	1,103	2.7	5.7	1,897	1.8	6.3	1,279	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
北北西風	2.3	4.5	1,736	2.1	3.7	1,602	1.2	2.2	878	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
北風	2.6	2.5	1,979	2.7	3.5	2,055	1.2	0.8	913	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
北北東風	1.6	0.7	1,218	1.2	0.5	939	1.4	0.2	1,065	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
北東風	1.3	0.2	929	0.8	0.7	572	2.0	0.3	1,430	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
東北東風	0.0	0.0	0	0.8	0.2	526	2.0	0.3	1,316	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
東風	1.4	0.2	658	0.7	0.2	329	1.5	0.2	705	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
東南東風	1.1	0.5	517	1.2	0.3	564	0.0	0.0	0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
南東風	1.0	0.2	470	1.2	0.3	564	0.0	0.0	0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
南南東風	1.1	0.3	493	0.9	0.2	423	0.0	0.0	0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
南風	1.0	0.7	446	0.0	0.0	0	0.8	0.5	376	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
南南西風	1.0	1.7	465	1.0	0.3	446	1.0	0.5	486	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
南西風	0.9	0.5	439	0.7	0.2	329	0.9	0.2	423	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
西南西風	0.6	0.2	282	0.0	0.0	0	1.0	0.2	470	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
漏洩日量 (m3)	25,475			27,567			24,126			0			0			0			0		

16方位毎の平均風速から漏洩率を前頁のように評価する。

漏洩量合計

評価期間	12/1 ~ 12/7	12/8 ~ 12/14	12/15 ~ 12/21	12/22 ~ 12/28	12/29 ~ 12/31	漏洩量合計(m3)	評価対象期間(h)	漏洩率(m3/h)
週間漏洩量 (m3)	199,896	199,202	161,654	215,942	77,168	853,862	744	1,148

端数処理をしているため記載の数値による計算が一致しない場合がある。

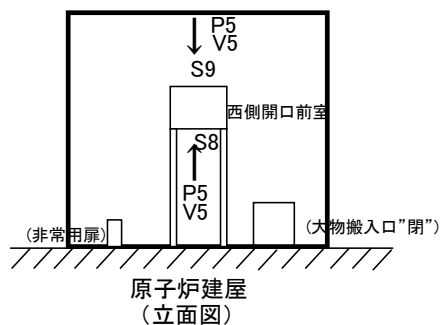
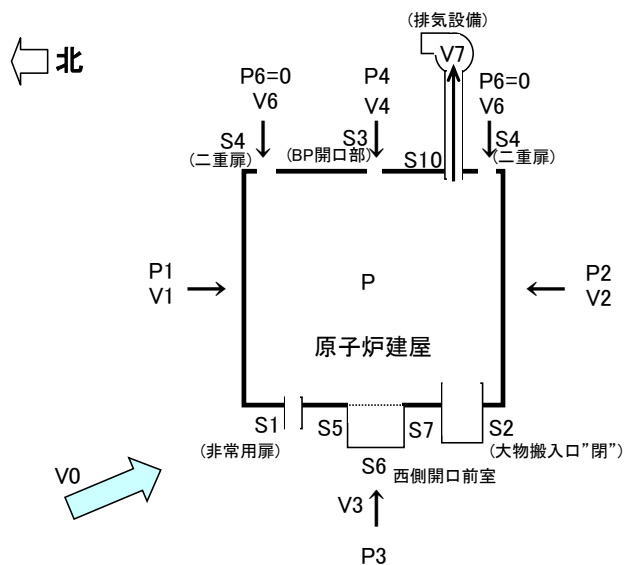
■ 評価方法

空気漏洩量は外部風速、建屋内外圧差、隙間面積などから計算で求める。

■ 計算例

12月31日

北北西風 1.2m/s



- V0: 外気風速 (m/s)
- V1: 建屋流入風速 (m/s)
- V2: 建屋流出風速 (m/s)
- V3: 建屋流入風速 (m/s)
- V4: 建屋流出風速 (m/s)
- V5: 建屋流入風速 (m/s)
- V6: 建屋流出風速 (m/s)
- V7: 排気風速 (m/s)
- P1: 上流側圧力 (北) (Pa)
- P2: 下流側圧力 (南) (Pa)
- P3: 上流側圧力 (西) (Pa)
- P4: 下流側圧力 (東) (Pa)
- P5: 床面圧力 (Pa)
- P6: T/B内圧力 (0Pa)
- P: 建屋内圧力 (Pa)
- S1: 非常用扉開口面積 (m²)
- S2: 大物搬入口開口面積 (m²)
- S3: BP隙間面積 (m²)
- S4: R/B二重扉(南北)開口面積 (m²)
- S5: 西側開口前室北側開口面積 (m²)
- S6: 西側開口前室西側開口面積 (m²)
- S7: 西側開口前室南側開口面積 (m²)
- S8: 西側開口前室床部開口面積 (m²)
- S9: 西側開口前室上部開口面積 (m²)
- S10: 排気ダクト面積 (m²)
- ρ : 空気密度 (kg/m³)
- C1: 風圧係数(北)
- C2: 風圧係数(南)
- C3: 風圧係数(西)
- C4: 風圧係数(東)
- C5: 風圧係数(床面)
- ζ : 形状抵抗係数

風速をVとすると、上流側、下流側の圧力は次のとおりとなる。

- 上流側(北) : $P1=C1 \times \rho \times V0^2/(2g)$... (1)
- 下流側(南) : $P2=C2 \times \rho \times V0^2/(2g)$... (2)
- 上流側(西) : $P3=C3 \times \rho \times V0^2/(2g)$... (3)
- 下流側(東) : $P4=C4 \times \rho \times V0^2/(2g)$... (4)
- 床面 : $P5=C5 \times \rho \times V0^2/(2g)$... (5)

内圧をP、隙間部の抵抗係数をζ とすると

- $P1-P=\zeta \times \rho \times V1^2/(2g)$... (6)
- $P2-P=\zeta \times \rho \times V2^2/(2g)$... (7)
- $P3-P=\zeta \times \rho \times V3^2/(2g)$... (8)
- $P4-P=\zeta \times \rho \times V4^2/(2g)$... (9)
- $P5-P=\zeta \times \rho \times V5^2/(2g)$... (10)
- $P6-P=\zeta \times \rho \times V6^2/(2g)$... (11)

空気流出入量のマスバランス式は

$$(V1 \times S5 + V2 \times S7 + V3 \times (S1 + S2 + S6) + V4 \times S3 + V5 \times (S8 + S9) + V6 \times S4) \times 3600 = V7 \times S10 \times 3600$$

左辺と右辺の差を「Y」とすると

$$Y = (V1 \times S5 + V2 \times S7 + V3 \times (S1 + S2 + S6) + V4 \times S3 + V5 \times (S8 + S9) + V6 \times S4) \times 3600 - V7 \times S10 \times 3600$$

V1～V6は(6)～(11)により、Pの関数なので、「Y」がゼロになるようにPの値を調整する

V0 (m/s)	C1	C2	C3	C4	C5	ζ	ρ (kg/m ³)		
1.15	0.80	-0.50	0.10	-0.50	-0.40	2.00	1.20		
S1 (m ²)	S2 (m ²)	S3 (m ²)	S4 (m ²)	S5 (m ²)	S6 (m ²)	S7 (m ²)	S8 (m ²)	S9 (m ²)	S10 (m ²)
2.075	0.000	0.340	0.370	0.010	0.230	1.124	0.001	0.000	0.500

P1 (Pa)	P2 (Pa)	P3 (Pa)	P4 (Pa)	P5 (Pa)	P6 (Pa)	P (Pa)
0.06521	-0.04076	0.008151	-0.04076	-0.0326	0	-0.06736

V1 (m/s)	V2 (m/s)	V3 (m/s)	V4 (m/s)	V5 (m/s)	V6 (m/s)	V7 (m/s)	Y (m ³ /h)
1.04	0.47	0.79	0.47	0.53	0.74	5.56	0.00
IN	IN	IN	IN	IN	IN	OUT(排気)	OK

※IN : 流入
OUT: 流出

週ごとの漏洩量評価（一例）

	12月29日			12月30日			12月31日			1月1日			1月2日			1月3日			1月4日		
	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)
西風	1.3	0.5	0	0.5	0.2	0	1.0	1.8	0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
西北西風	1.5	5.7	980	1.5	2.2	655	1.8	9.0	2,494	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
北西風	1.5	3.5	0	2.7	5.7	4,659	1.8	6.3	1,240	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
北北西風	2.3	4.5	1,593	2.1	3.7	904	1.2	2.2	0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
北風	2.6	2.5	0	2.7	3.5	0	1.2	0.8	0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
北北東風	1.6	0.7	0	1.2	0.5	0	1.4	0.2	0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
北東風	1.3	0.2	0	0.8	0.7	0	2.0	0.3	0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
東北東風	0.0	0.0	0	0.8	0.2	0	2.0	0.3	0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
東風	1.4	0.2	0	0.7	0.2	0	1.5	0.2	0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
東南東風	1.1	0.5	0	1.2	0.3	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
南東風	1.0	0.2	0	1.2	0.3	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
南南東風	1.1	0.3	0	0.9	0.2	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
南風	1.0	0.7	0	0.0	0.0	0	0.8	0.5	0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
南南西風	1.0	1.7	0	1.0	0.3	0	1.0	0.5	0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
南西風	0.9	0.5	0	0.7	0.2	0	0.9	0.2	0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
西南西風	0.6	0.2	0	0.0	0.0	0	1.0	0.2	0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
漏洩日量 (m3)	12,720			31,133			30,301			0			0			0			0		

16方位毎の平均風速から漏洩率を前頁のように評価する。

漏洩量合計

評価期間	12/1 ~ 12/7	12/8 ~ 12/14	12/15 ~ 12/21	12/22 ~ 12/28	12/29 ~ 12/31	漏洩量合計(m3)	評価対象期間(h)	漏洩率(m3/h)
週間漏洩量 (m3)	231,626	169,432	91,249	269,171	74,155	835,633	744	1,123

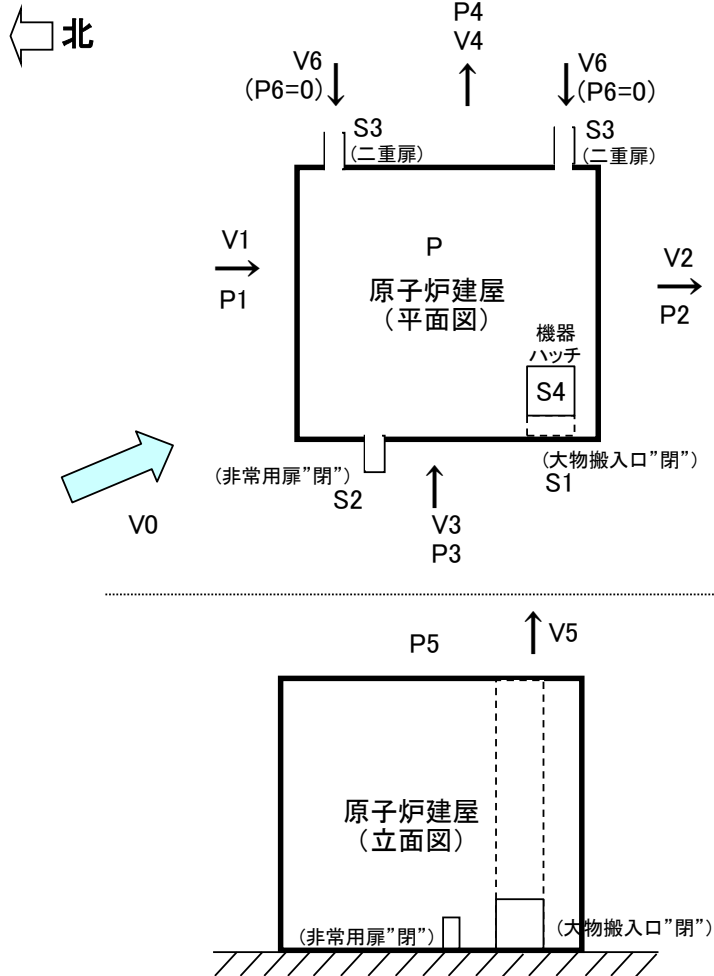
端数処理をしているため記載の数値による計算が一致しない場合がある。

評価方法

空気漏洩量は外部風速、建屋内外圧差、隙間面積などから計算で求める。

計算例

12月31日 北北西風 1.2m/s



- V0: 外気風速 (m/s)
- V1: 建屋流出入風速 (m/s)
- V2: 建屋流出入風速 (m/s)
- V3: 建屋流出入風速 (m/s)
- V4: 建屋流出入風速 (m/s)
- V5: 建屋流出入風速 (m/s)
- V6: 建屋流出入風速 (m/s)
- P1: 上流側圧力 (北) (Pa)
- P2: 下流側圧力 (南) (Pa)
- P3: 上流側圧力 (西) (Pa)
- P4: 下流側圧力 (東) (Pa)
- P5: 上面部圧力 (Pa)
- P6: T/B内圧力 (0Pa)
- P: 建屋内圧力 (Pa)
- S1: R/B大物搬入口面積 (m²)
- S2: R/B非常用扉開口面積 (m²)
- S3: R/B二重扉開口面積 (m²)
- S4: 機器ハッチ隙間面積 (m²)
- ρ : 空気密度 (kg/m³)
- C1: 風圧係数 (北)
- C2: 風圧係数 (南)
- C3: 風圧係数 (西)
- C4: 風圧係数 (東)
- C5: 風圧係数 (上面部)
- ζ : 形状抵抗係数

風速をVとすると、上流側、下流側の圧力は次のとおりとなる。

- 上流側(北) : $P1=C1 \times \rho \times V0^2/(2g)$... (1)
- 下流側(南) : $P2=C2 \times \rho \times V0^2/(2g)$... (2)
- 上流側(西) : $P3=C3 \times \rho \times V0^2/(2g)$... (3)
- 下流側(東) : $P4=C4 \times \rho \times V0^2/(2g)$... (4)
- 上面部 : $P5=C5 \times \rho \times V0^2/(2g)$... (5)

内圧をP、隙間部の抵抗係数をζ とすると

- $P1-P=\zeta \times \rho \times V1^2/(2g)$... (6)
- $P-P2=\zeta \times \rho \times V2^2/(2g)$... (7)
- $P3-P=\zeta \times \rho \times V3^2/(2g)$... (8)
- $P-P4=\zeta \times \rho \times V4^2/(2g)$... (9)
- $P-P5=\zeta \times \rho \times V5^2/(2g)$... (10)
- $P6-P=\zeta \times \rho \times V6^2/(2g)$... (11)

空気流出入量のマスバランス式は

$$(V1 \times 0 + V3 \times (S1 + S2) + V6 \times S3) \times 3600 = (V2 \times 0 + V4 \times 0 + V5 \times S4) \times 3600$$

左辺と右辺の差を「Y」とすると

$$Y = (V1 \times 0 + V3 \times (S1 + S2) + V6 \times S3) \times 3600 - (V2 \times 0 + V4 \times 0 + V5 \times S4) \times 3600$$

V1～V6は(6)～(11)式により、Pの関数なので、「Y」がゼロになるように

Pの値を調整する

V0 (m/s)	C1	C2	C3	C4	C5	ζ	ρ (kg/m ³)
1.15	0.80	-0.50	0.10	-0.50	-0.40	2.00	1.20
S1 (m ²)	S2 (m ²)	S3 (m ²)	S4 (m ²)				
0.00	0.00	6.05	1.01				

P1 (Pa)	P2 (Pa)	P3 (Pa)	P4 (Pa)	P5 (Pa)	P6 (Pa)	P (Pa)
0.06521	-0.04076	0.008151	-0.04076	-0.0326	0	-0.00089

V1 (m/s)	V2 (m/s)	V3 (m/s)	V4 (m/s)	V5 (m/s)	V6 (m/s)	Y (m ³ /h)
0.73	0.57	0.27	0.57	0.51	0.09	0.00
IN	OUT	IN	OUT	OUT	IN	OK

※IN : 流入
OUT : 流出

漏洩率

1,851 m³/h

週ごとの漏洩量評価（一例）

	12月29日			12月30日			12月31日			1月1日			1月2日			1月3日			1月4日		
	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)
西風	1.3	0.5	2,138	0.5	0.2	802	1.0	1.8	1,618	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
西北西風	1.5	5.7	2,420	1.5	2.2	2,332	1.8	9.0	2,899	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
北西風	1.5	3.5	2,474	2.7	5.7	4,255	1.8	6.3	2,870	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
北北西風	2.3	4.5	3,659	2.1	3.7	3,375	1.2	2.2	1,851	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
北風	2.6	2.5	4,170	2.7	3.5	4,330	1.2	0.8	1,925	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
北北東風	1.6	0.7	2,566	1.2	0.5	1,978	1.4	0.2	2,245	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
北東風	1.3	0.2	2,085	0.8	0.7	1,283	2.0	0.3	3,208	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
東北東風	0.0	0.0	0	0.8	0.2	1,283	2.0	0.3	3,208	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
東風	1.4	0.2	2,245	0.7	0.2	1,123	1.5	0.2	2,406	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
東南東風	1.1	0.5	1,764	1.2	0.3	1,925	0.0	0.0	0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
南東風	1.0	0.2	1,604	1.2	0.3	1,925	0.0	0.0	0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
南南東風	1.1	0.3	1,684	0.9	0.2	1,443	0.0	0.0	0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
南風	1.0	0.7	1,524	0.0	0.0	0	0.8	0.5	1,283	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
南南西風	1.0	1.7	1,588	1.0	0.3	1,524	1.0	0.5	1,657	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
南西風	0.9	0.5	1,497	0.7	0.2	1,123	0.9	0.2	1,443	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
西南西風	0.6	0.2	962	0.0	0.0	0	1.0	0.2	1,604	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
漏洩日量 (m3)	59,048			61,293			57,738			0			0			0			0		

16方位毎の平均風速から漏洩率を前頁のように評価する。

漏洩量合計

評価期間	12/1 ~ 12/7	12/8 ~ 12/14	12/15 ~ 12/21	12/22 ~ 12/28	12/29 ~ 12/31	漏洩量合計(m3)	評価対象期間(h)	漏洩率(m3/h)
週間漏洩量 (m3)	473,105	453,111	405,717	505,529	178,079	2,015,541	744	2,709

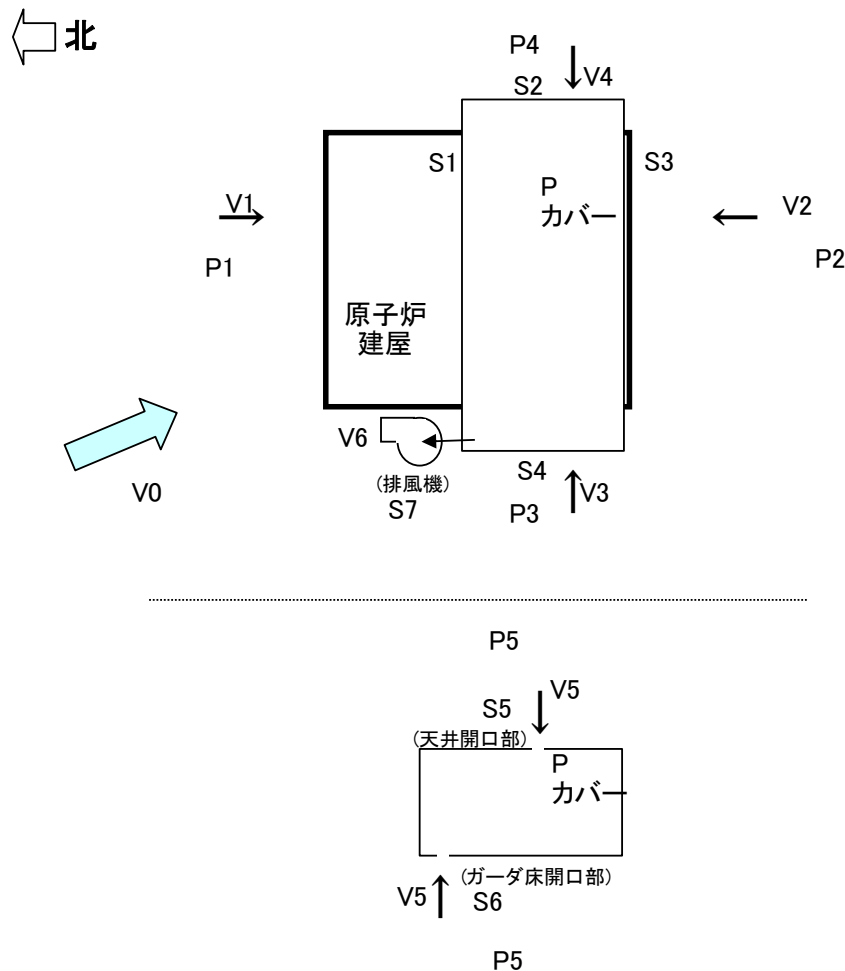
端数処理をしているため記載の数値による計算が一致しない場合がある。

評価方法

空気漏洩量は外部風速、建屋内外圧差、隙間面積などから計算で求める。

計算例

12月31日 北北西風 1.2m/s



- V0: 外気風速 (m/s)
- V1: カバー内流出入風速 (m/s)
- V2: カバー内流出入風速 (m/s)
- V3: カバー内流出入風速 (m/s)
- V4: カバー内流出入風速 (m/s)
- V5: カバー内流出入風速 (m/s)
- V6: 排気風速 (m/s)
- P: カバー内圧力 (Pa)
- P1: 上流側圧力 (北) (Pa)
- P2: 下流側圧力 (南) (Pa)
- P3: 上流側圧力 (西) (Pa)
- P4: 下流側圧力 (東) (Pa)
- P5: 上下部圧力 (Pa)
- S1: カバー隙間面積 (m²)
- S2: カバー隙間面積 (m²)
- S3: カバー隙間面積 (m²)
- S4: カバー隙間面積 (m²)
- S5: カバー天井部隙間面積 (m²)
- S6: ガーダ床隙間面積 (m²)
- S7: 排気ダクト吸込口面積 (m²)
- ρ : 空気密度 (kg/m³)
- C1: 風圧係数 (風上側 (北))
- C2: 風圧係数 (風下側 (南))
- C3: 風圧係数 (風上側 (西))
- C4: 風圧係数 (風下側 (東))
- C5: 風圧係数 (上下部)
- ζ : 形状抵抗係数

風速をVとすると、上流側、下流側の圧力は次のとおりとなる。

- 上流側(北) : $P1=C1 \times \rho \times V0^2/(2g)$... (1)
- 下流側(南) : $P2=C2 \times \rho \times V0^2/(2g)$... (2)
- 上流側(西) : $P3=C3 \times \rho \times V0^2/(2g)$... (3)
- 下流側(東) : $P4=C4 \times \rho \times V0^2/(2g)$... (4)
- 上面部 : $P5=C5 \times \rho \times V0^2/(2g)$... (5)

内圧をP、隙間部の抵抗係数をζ とすると

- $P1-P=\zeta \times \rho \times V1^2/(2g)$... (6)
- $P2-P=\zeta \times \rho \times V2^2/(2g)$... (7)
- $P3-P=\zeta \times \rho \times V3^2/(2g)$... (8)
- $P4-P=\zeta \times \rho \times V4^2/(2g)$... (9)
- $P5-P=\zeta \times \rho \times V5^2/(2g)$... (10)

空気流出入量のマスバランス式は

$$(V1 \times S1 + V2 \times S3 + V3 \times S4 + V4 \times S2 + V5 \times (S5 + S6)) \times 3600 = V6 \times S7 \times 3600$$

左辺と右辺の差を「Y」とすると

$$Y = (V1 \times S1 + V2 \times S3 + V3 \times S4 + V4 \times S2 + V5 \times (S5 + S6)) \times 3600 - V6 \times S7 \times 3600$$

V1, V2, V3, V4, V5は(6), (7), (8), (9), (10)式により、Pの関数なので、「Y」がゼロになるようにPの値を調整する

V0 (m/s)	C1	C2	C3	C4	C5	ζ	ρ (kg/m ³)
1.15	0.80	-0.50	0.10	-0.50	-0.40	2.00	1.20
S1 (m ²)	S2 (m ²)	S3 (m ²)	S4 (m ²)	S5 (m ²)	S6 (m ²)	S7 (m ²)	
2.56	0.41	2.56	0.41	0.36	4.47	4.76	

P1 (Pa)	P2 (Pa)	P3 (Pa)	P4 (Pa)	P5 (Pa)	P (Pa)
0.06521	-0.04076	0.008151	-0.04076	-0.0326	-0.08805

V1 (m/s)	V2 (m/s)	V3 (m/s)	V4 (m/s)	V5 (m/s)	V6 (m/s)	Y (m ³ /h)
1.12	0.62	0.89	0.62	0.67	1.75	0.00
IN	IN	IN	IN	IN	OUT(排気)	OK

※IN : 流入
OUT: 流出

漏洩量

0 m³/h

週ごとの漏洩量評価（一例）

	12月29日			12月30日			12月31日			1月1日			1月2日			1月3日			1月4日		
	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)
西風	1.3	0.5	0	0.5	0.2	0	1.0	1.8	0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
西北西風	1.5	5.7	0	1.5	2.2	0	1.8	9.0	0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
北西風	1.5	3.5	0	2.7	5.7	0	1.8	6.3	0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
北北西風	2.3	4.5	0	2.1	3.7	0	1.2	2.2	0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
北風	2.6	2.5	0	2.7	3.5	0	1.2	0.8	0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
北北東風	1.6	0.7	0	1.2	0.5	0	1.4	0.2	0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
北東風	1.3	0.2	0	0.8	0.7	0	2.0	0.3	0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
東北東風	0.0	0.0	0	0.8	0.2	0	2.0	0.3	0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
東風	1.4	0.2	0	0.7	0.2	0	1.5	0.2	0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
東南東風	1.1	0.5	0	1.2	0.3	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
南東風	1.0	0.2	0	1.2	0.3	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
南南東風	1.1	0.3	0	0.9	0.2	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
南風	1.0	0.7	0	0.0	0.0	0	0.8	0.5	0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
南南西風	1.0	1.7	0	1.0	0.3	0	1.0	0.5	0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
南西風	0.9	0.5	0	0.7	0.2	0	0.9	0.2	0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
西南西風	0.6	0.2	0	0.0	0.0	0	1.0	0.2	0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
漏洩日量 (m3)	0			0			0			0			0			0			0		

16方位毎の平均風速から漏洩率を前頁のように評価する。

漏洩量合計

評価期間	12/1 ~ 12/7	12/8 ~ 12/14	12/15 ~ 12/21	12/22 ~ 12/28	12/29 ~ 12/31	漏洩量合計(m3)	評価対象期間(h)	漏洩率(m3/h)
週間漏洩量 (m3)	86,201	30,605	29,738	144,038	0	290,583	744	391

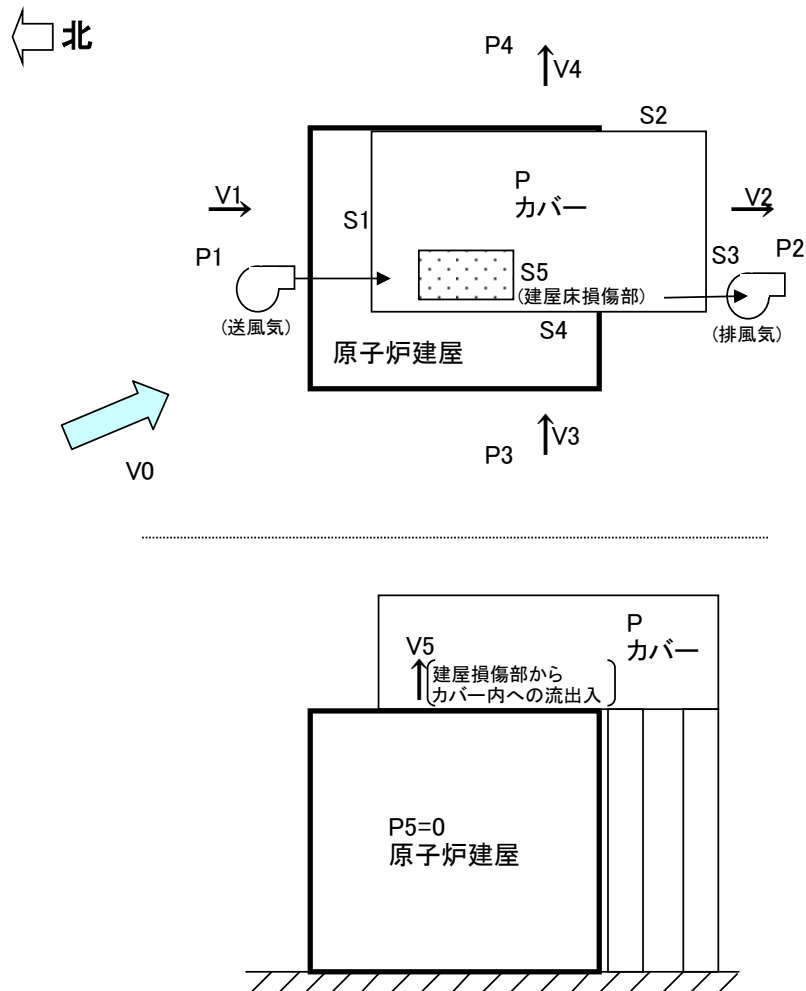
端数処理をしているため記載の数値による計算が一致しない場合がある。

■ 評価方法

空気漏洩量は外部風速、建屋内外圧差、隙間面積などから計算で求める。

■ 計算例

12月31日 北北西風 1.2m/s



- V0: 外気風速 (m/s)
- V1: カバー内流出入風速 (m/s)
- V2: カバー内流出入風速 (m/s)
- V3: カバー内流出入風速 (m/s)
- V4: カバー内流出入風速 (m/s)
- V5: カバー内流出入風速 (m/s)
- P: カバー内圧力 (Pa)
- P1: 上流側圧力 (北風) (Pa)
- P2: 下流側圧力 (北風) (Pa)
- P3: 上流側圧力 (西風) (Pa)
- P4: 下流側圧力 (西風) (Pa)
- P5: R/B内圧力 (0Pa)
- S1: カバー隙間面積 (m²)
- S2: カバー隙間面積 (m²)
- S3: カバー隙間面積 (m²)
- S4: カバー隙間面積 (m²)
- S5: 建屋床損傷部隙間面積 (m²)
- ρ: 空気密度 (kg/m³)
- C1: 風圧係数 (北風上側)
- C2: 風圧係数 (北風下側)
- C3: 風圧係数 (西風上側)
- C4: 風圧係数 (西風下側)
- ζ: 形状抵抗係数

風速をVとすると、上流側、下流側の圧力は次のとおりとなる。

- 上流側(北風) : $P1=C1 \times \rho \times V0^2/(2g)$... (1)
- 下流側(北風) : $P2=C2 \times \rho \times V0^2/(2g)$... (2)
- 上流側(西風) : $P3=C3 \times \rho \times V0^2/(2g)$... (3)
- 下流側(西風) : $P4=C4 \times \rho \times V0^2/(2g)$... (4)

内圧をP、隙間部の抵抗係数をζ とすると

- $P1-P=\zeta \times \rho \times V1^2/(2g)$... (5)
- $P-P2=\zeta \times \rho \times V2^2/(2g)$... (6)
- $P3-P=\zeta \times \rho \times V3^2/(2g)$... (7)
- $P-P4=\zeta \times \rho \times V4^2/(2g)$... (8)
- $P5-P=\zeta \times \rho \times V5^2/(2g)$... (9)

空気流出量のマスバランス式は

$$(V1 \times S1 + V3 \times S4 + V5 \times S5) \times 3600 = (V2 \times S3 + V4 \times S2) \times 3600$$

左辺と右辺の差を「Y」とすると

$$Y = (V1 \times S1 + V3 \times S4 + V5 \times S5) \times 3600 - (V2 \times S3 + V4 \times S2) \times 3600$$

V1, V2, V3, V4, V5は(5), (6), (7), (8), (9)式により、Pの関数なので、「Y」がゼロになるようにPの値を調整する

V0 (m/s)	C1	C2	C3	C4	ζ	ρ (kg/m ³)
1.15	0.80	-0.50	0.10	-0.50	2.00	1.20
S1 (m ²)	S2 (m ²)	S3 (m ²)	S4 (m ²)	S5 (m ²)		
0.44	0.81	0.46	0.81	4.00		

P1 (Pa)	P2 (Pa)	P3 (Pa)	P4 (Pa)	P5 (Pa)	P (Pa)
0.06521	-0.04076	0.008151	-0.04076	0	-0.00028

V1 (m/s)	V2 (m/s)	V3 (m/s)	V4 (m/s)	V5 (m/s)	Y (m ³ /h)
0.73	0.57	0.26	0.57	0.05	0.00
IN	OUT	IN	OUT	IN	OK

※IN : 流入
OUT : 流出

漏洩率

2,612 m³/h

週ごとの漏洩量評価（一例）

	12月29日			12月30日			12月31日			1月1日			1月2日			1月3日			1月4日		
	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)
西風	1.3	0.5	3,624	0.5	0.2	1,359	1.0	1.8	2,743	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
西北西風	1.5	5.7	3,427	1.5	2.2	3,302	1.8	9.0	4,105	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
北西風	1.5	3.5	3,504	2.7	5.7	6,025	1.8	6.3	4,064	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
北北西風	2.3	4.5	5,165	2.1	3.7	4,764	1.2	2.2	2,612	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
北風	2.6	2.5	8,174	2.7	3.5	8,489	1.2	0.8	3,773	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
北北東風	1.6	0.7	3,622	1.2	0.5	2,792	1.4	0.2	3,169	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
北東風	1.3	0.2	2,953	0.8	0.7	1,817	2.0	0.3	4,542	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
東北東風	0.0	0.0	0	0.8	0.2	1,817	2.0	0.3	4,543	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
東風	1.4	0.2	3,805	0.7	0.2	1,902	1.5	0.2	4,077	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
東南東風	1.1	0.5	2,469	1.2	0.3	2,693	0.0	0.0	0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
南東風	1.0	0.2	2,244	1.2	0.3	2,693	0.0	0.0	0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
南南東風	1.1	0.3	2,350	0.9	0.2	2,014	0.0	0.0	0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
南風	1.0	0.7	2,973	0.0	0.0	0	0.8	0.5	2,504	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
南南西風	1.0	1.7	2,216	1.0	0.3	2,126	1.0	0.5	2,313	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
南西風	0.9	0.5	2,095	0.7	0.2	1,571	0.9	0.2	2,020	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
西南西風	0.6	0.2	1,347	0.0	0.0	0	1.0	0.2	2,245	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
漏洩日量 (m3)	90,055			95,033			83,875			0			0			0			0		

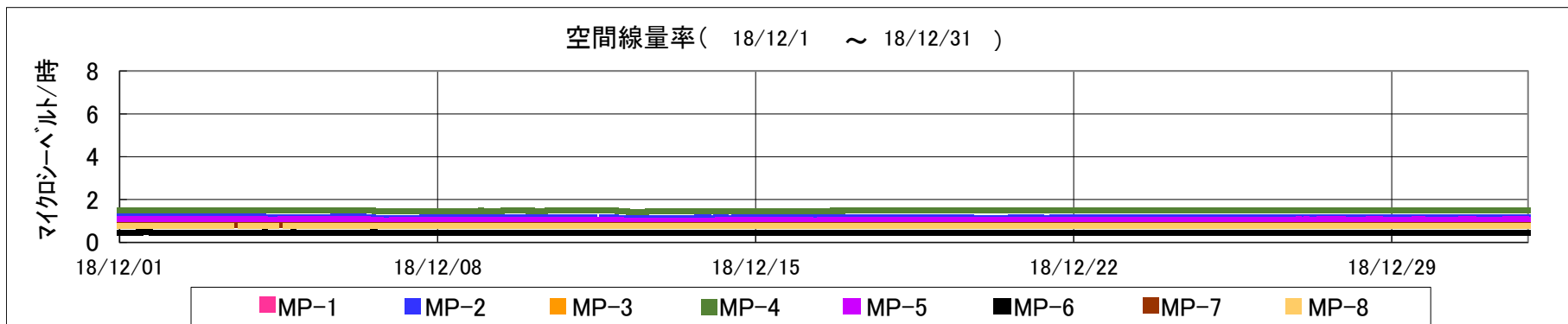
16方位毎の平均風速から漏洩率を前頁のように評価する。

漏洩量合計

評価期間	12/1 ~ 12/7	12/8 ~ 12/14	12/15 ~ 12/21	12/22 ~ 12/28	12/29 ~ 12/31	漏洩量合計(m3)	評価対象期間(h)	漏洩率(m3/h)
週間漏洩量 (m3)	700,310	668,692	623,390	741,025	268,963	3,002,380	744	4,035

端数処理をしているため記載の数値による計算が一致しない場合がある。

● 低いレベルで安定。



● 大きな上昇はなく、低濃度で安定。

